



BERNINA 330 | 350 PE | 380

made to create **BERNINA**

ベルニナユーザーの皆様へ

この度はベルニナマシンをお買い上げ戴き誠にありがとうございます。

ベルニナは、マシン作り100年を越える歴史を通じて、いつの時代にも全てのお客様にご満足していただける製品をお届けすることを最大の目標としてまいりましたが、今現在もスイスの優れた伝統技術、未来志向のソーイング・テクノロジー、そして他に類を見ないような行き届いたアフターサービスをお届け出来る事を誇りに思う次第です。

今回お届けするベルニナ330、350そして380は人間工学に基づいて使い易くデザインされ、お客様個々のいろんなニーズにご満足いただける結果をもたらせる、かつてない新しいタイプのコンピューターマシンです。

ベルニナコンピューターマシンでクリエイティブなソーイングをお楽しみください。
豊富に取り揃えられたソーイングアクセサリやwww.bernina.comでお届けする新しい情報を使いこなして、素敵なソーイングにチャレンジしてください。

最後に、熟練したベルニナ正規販売代理店が皆様のアフターサービスをご提供いたしますのでご安心ください。



H. P. Ulrich

H.P.ウルチ
オーナー
ベルニナマシン株式会社
CH-8266 Steckborn
www.bernina.com

安全に関する説明

安全に関する重要事項

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な順守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

ご使用の前には必ず説明書をご一読の上、操作方法を十分理解してからご使用下さい。

当製品をお使いにならない時は、電源プラグをコンセントから外しておいて下さい。

危険!

感電の恐れがあります。次の注意事項をお守り下さい。

1. プラグをコンセントにつないだままで、ミシンから離れないで下さい。
2. ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。
3. LEDからの放射線：LED光がレンズなどを通して直接目に入らないようご注意ください。LED クラス1M。

警告!

火傷、火災、感電およびケガの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1. この説明書に従ってご使用下さい。また、ベルニナ社がお薦めする純正の付属品・別売りアクセサリのみをご使用下さい。
2. おもちゃとして絶対に使わないで下さい。また、小さなお子様や障害のある方の近くでのご使用時は、特別の注意を払って下さい。視覚障害、知覚障害、又は精神障害のある方、経験や知識のない方は安全にご使用いただくための責任を持つ方のご指導又は監督の無い限りはこのミシンをお使い戴けません。お子様がミシンで遊ばないように十分監督して下さい。
3. 次のような場合には、絶対に当製品を使わないで下さい。
 - 電源コードやプラグに損傷のある場合。
 - ミシンが正常に作動しないとき。
 - 落としたり、損傷したとき。
 - 水の中に落としたりしたとき。


このような場合には、お近くのベルニナ正規販売代理店に、ミシンの点検、修理、調整をご依頼下さい。

4. ミシンの通気孔をふさがらないで下さい。また、ミシンの通気孔に糸くずやほこり、布きれが詰まった状態で使わないで下さい。
5. 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の回りでは、細心の注意を払って下さい。
6. ミシンやフットコントローラーの間隙からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。
7. 戸外で使わないで下さい。
8. 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では使わないで下さい。
9. 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりすると、針をいため、針折れの原因となります。
10. 曲がった針は使わないで下さい。
11. 常にベルニナ純正の正しい針板をお使い下さい。不適切な針板を使うと針折れを起こすことになります。
12. 電源プラグをコンセントから抜く場合には、必ずまず電源スイッチでオフ<0> (off)にして下さい。コードを引っ張らずに、プラグを持って抜いて下さい。
13. 糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切って下さい。
14. ミシンカバーを外したり、注油、又は説明書に従って調整する場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
15. このミシンには二重絶縁構造が採用されています(アメリカ合衆国とカナダを除く)。交換する時には純正品をお使い下さい。二重絶縁構造の家電製品のサービスに関する情報をご参照下さい。

二重絶縁について

二重絶縁構造の家電製品では、アースの代わりに二重の絶縁構造が採用されています。二重絶縁構造の家電製品のサービスは特別の注意を要し、知識のあるサービス担当者のみ扱うことが出来ます。交換部品は必ずオリジナル部品と同じものが使われなければなりません。

二重絶縁構造の家電製品は《二重絶縁》又は《二重絶縁構造》と表示されています。

このマーク  が製品に表示されている場合もあります。

ご注意!

誤った使い方の結果発生した製品不良に関しては保証の対象とはなりません。

このミシンは家庭でのご使用向けに作られています。

説明書は大切に保管して下さい。



最新の説明書は www.bernina.com で入手できます。



環境保護について

ベルニナ社は環境保護を遵守します。私たちは環境汚染を最小限に食い止めるためにデザインや製造方法などの改善に努めています。

製品の寿命に到達した時にはその国の環境保護法に則って処分されるようお願いいたします。家庭ごみと共に処分することは止めて下さい。判らない時はお買い求めのベルニナ正規販売代理店にお問い合わせ下さい。




ミシンを長期間厳寒の部屋の中に放置していた場合は、お使いになる1時間くらい前に暖かいお部屋に移してから使い始めてください。


アクセサリ	5-7
ミシンを準備する ■ ミシンの各部名称 8 ■ ミシンを準備する 10	8-23
各種の機能 ■ 各種機能の説明 24 ■ 画面の詳細 26 ■ メモリー 27	24-29
各種ステッチの一覧 ■ 実用縫い 30 ■ 応用例 31 ■ ボタンホール縫い 36 ■ 飾り縫い/パッチワークステッチ 43	30-43
クリーニングとメンテナンス ■ ミシンと画面 44 ■ 注油 44	44
困った時は	45
各種ステッチの一覧	46
索引	47-49

用語解説

バランス	布により発生する不規則なステッチの状態
clr	動作やデータを取り消す操作
LED	ソーイングライト
FHS	フリーハンドシステム= 膝押え上げレバー
mem	メモリー= 恒久的なメモリー
バータック	ボタンホールの環留め
サテンステッチ	密度の高いジグザグ縫い
折り目	布を折り返した折り目
釜の剣先	上糸を«引っ掛け» て、下糸に絡ませてステッチを作り出す役目



重要事項!
破損の危険性!



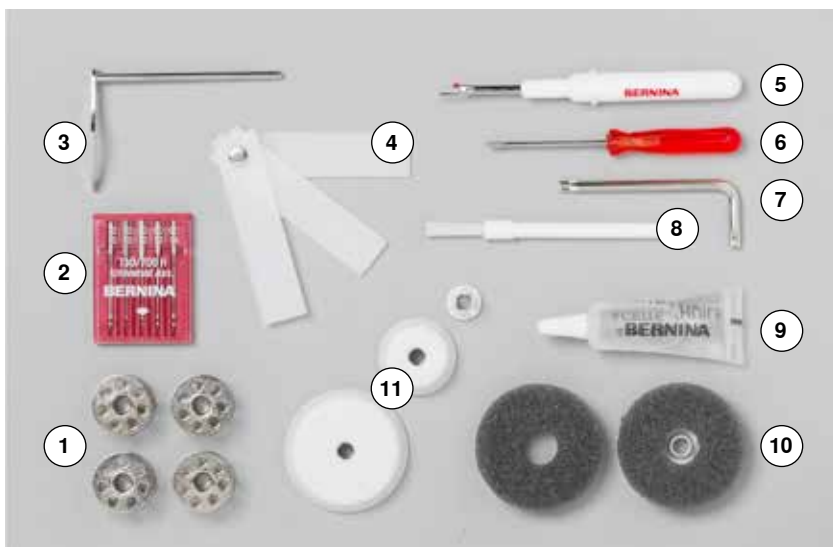
補足情報!

* BERNINA 330では標準装備品ではありません。
 ** BERNINA 350では標準装備品ではありません。
 *** BERNINA 380では標準装備品ではありません。

標準アクセサリ

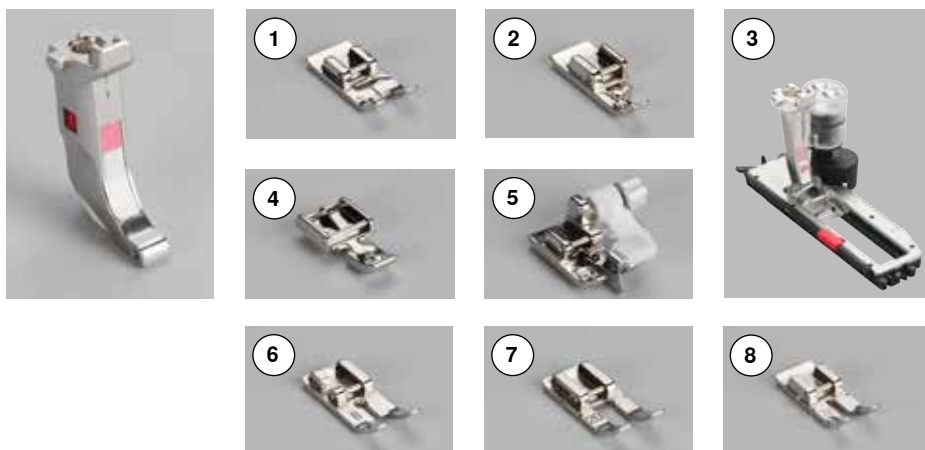


- ミシンカバー
- アクセサリバッグ */**
- アクセサリポーチ ***
- フットコントローラー
- 電源コード
- ソーイングテーブル*
- ステッチガイド板
- 板膝押え上げレバー (FHS) */**



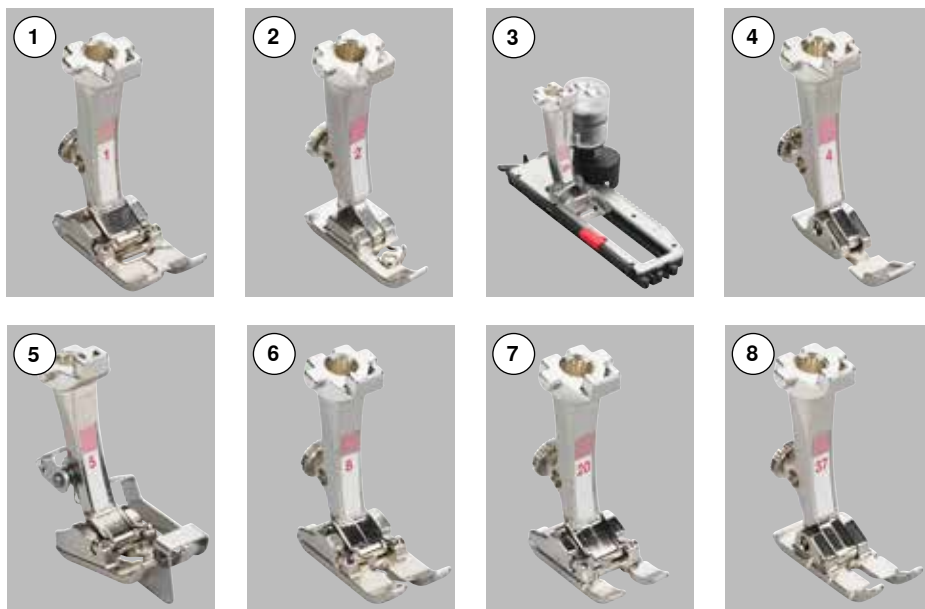
- 1 ボビン5個 (一個はミシンに装着)
- 2 標準針セット
- 3 布ガイド
- 4 布高さ調節板
- 5 シームリッパー
- 6 小型ドライバー (赤)
- 7 特殊L型レンチ
- 8 ブラシ
- 9 オイル
- 10 糸こまクッション2種類
- 11 糸こまカバー3種類

押え金 - スナップオンタイプ(国により仕様が異なります) (BERNINA 330/350/350 PE/380)



- 1 No. 1 標準押え
- 2 No. 2 オーバーロック押え(モデル 350 PEを除く)
- 3 No. 3A 布ガイド付自動ボタンホール押え
- 4 No. 4 ファスナー押え
- 5 No. 5 まつり縫い押え
- 6 No. 8 ジーンズ押え */**/(モデル 350 PEを除く)
- 7 No. 20 オープン刺しゅう押え*
- 8 No. 37 パッチワーク押え(モデル 350 PEのみ)

ベルニナ式押え金一標準装備 (BERNINA 350/350 PE/380)



- 1 No. 1 標準押え
- 2 No. 2 オーバーロック押え(モデル 350 PEを除く)
- 3 No. 3A 布ガイド付自動ボタンホール押え
- 4 No. 4 ファスナー押え
- 5 No. 5 まつり縫い押え
- 6 No. 8 ジーンズ押え**/(モデル 350 PEを除く)
- 7 No. 20 オープン刺しゅう押え
- 8 No. 37 パッチワーク押え(モデル 350 PEのみ)



その他の各種オプション押えに関してはwww.bernina.comで見つけられます。

押え金 - スナップオンタイプ(国により仕様が異なります。)

アクセサリバッグ **



アクセサリの収納方法

標準アクセサリはビニール袋の中に全て梱包されています。写真を参考にして収納してください。



アクセサリポーチ***



モデルB330/350では標準アクセサリをポーチに収納することが出来ます。布ガイド付自動ボタンホール押え 3A のみは個別の収納場所に収めてください。

正面

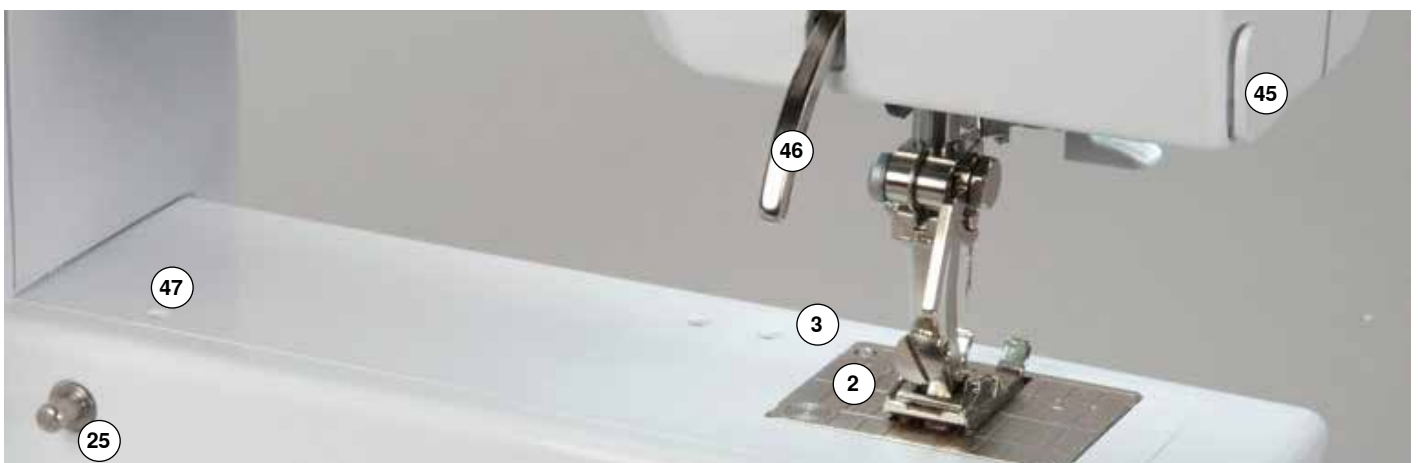


各部の名称

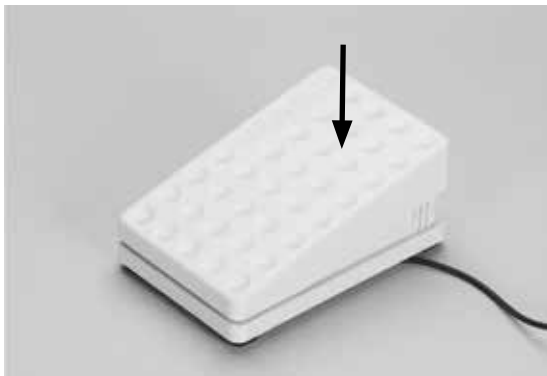




- 1 釜カバー
- 2 針板
- 3 特殊アクセサリ取付用ネジ穴
- 4 LEDソーイングライト
- 5 手元返し縫いボタン
- 6 スタート/ストップボタン
- 7 天秤安全カバー
- 8 天秤
- 9 下糸巻用糸案内
- 10 スピードコントロール
- 11 画面
- 12 針上下位置停止ボタン
- 13 一模様縫いボタン
- 14 模様反転ボタン*/**
- 15 送り長さ調節ボタン
- 16 針基線選択ボタン
- 17 振り幅調節ボタン
- 18 下糸巻き装置
- 19 下糸巻き糸切り
- 20 メモリーボタン
- 21 文字選択ボタン
- 22 模様選択ボタン
- 23 #-ボタン
- 24 «clr» クリヤーボタン
- 25 スライドオンテーブル固定用ピン(前後)
- 26 FHS (フリーハンドシステム) 差込口 *
- 27 上糸ダイヤルテンション
- 28 後部上糸案内
- 29 キャリングハンドル
- 30 垂直糸こま立て(折りたたみ式)
- 31 水平糸こま立て
- 32 糸案内
- 33 弾み車
- 34 バランス調整つまみ
- 35 フットコントローラー用ソケット
- 36 送り歯ドロッププッシュボタン
- 37 電源ON/OFFスイッチ
- 38 電源コード用ソケット
- 39 糸通し機
- 40 糸ガイド
- 41 針止めネジ
- 42 押え金
- 43 下糸切り
- 44 送り歯
- 45 糸切り(ミシン左側面)
- 46 押え上げ
- 47 つくろい縫い枠(オプション)取付け穴



フットコントローラー



スピードコントロール

- フットコントローラーでソーイング速度を調節する。



コード収納ホルダー

- コードを巻いて収納する。
- プラグを溝に差し込む。

ソーイング中

- コードを取り出す。

LED ソーイングライト



LED ソーイングライトは寿命の長いのが特徴で手元を明るく照らします。



ソーイングライトの交換はベルニナ正規販売代理店にお申し出下さい。
ミシンをベルニナ正規販売代理店にお持ち下さい。

ソーイングテーブル *



ソーイングテーブルを使えば、作業スペースを広げることができます。

ソーイングテーブルを取り付ける

- 針と押え金を上げます。
- フリーアーム部に合わせてスライドさせます。

ソーイングテーブルを取り外す

- 針と押え金を上げます。
- ボタンをプッシュしてテーブルを左方向に引っ張ります。

フリーハンドシステム(FHS) */**



FHSフリーハンドシステムは押えも同時に上げます。

レバーを取り付ける

- レバーを取付け用の穴にセットします。これで、座った状態で、膝を使って押え金を上下できます。

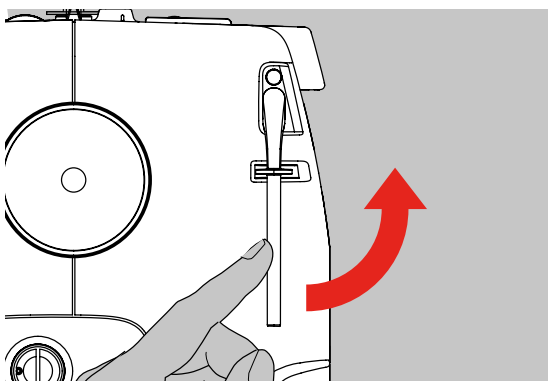
押え金を膝操作で上げたり、下げたりする

- レバーを膝で右方向に押しやります。
- 押え金が持ち上げられ、同時に送り歯がドロップし、上糸テンションダイヤルが開放されます。
- ステッチを縫いだすと送り歯は自動的に上がってきて布を送り始めます。

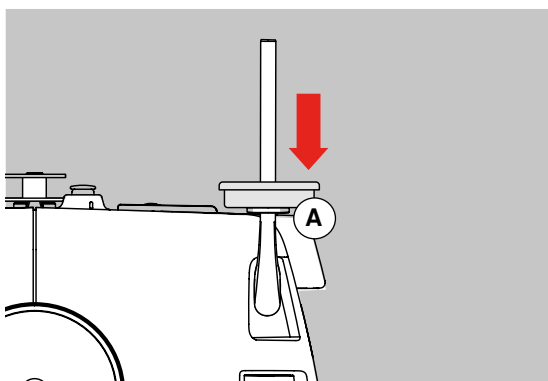


レバーの角度の調節は、ベルニナ正規販売代理店にご相談下さい。

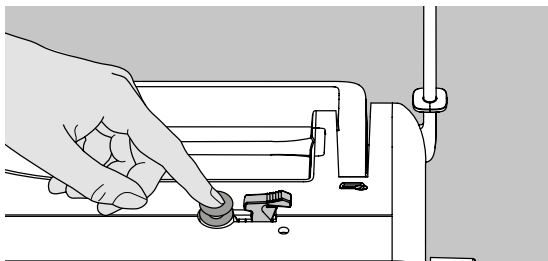
垂直型糸駒立て - 折りたたみ式



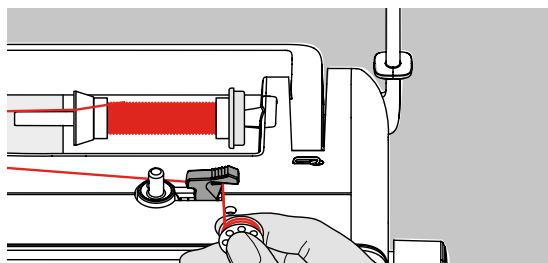
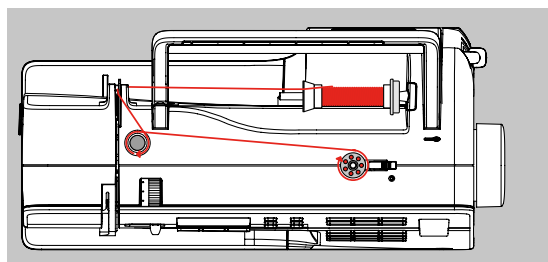
- 垂直型糸駒立ては、ミシンの右側、弾み車の後方に位置しています。
- 二本の糸を使う二本針ソーイングなどの時には大変便利な機能です。
- 垂直糸こま立ては真っ直ぐ上を向く位置に立ててください。
- 大きな糸駒を使うときには、フォームパッド付の土台 **A** を使うと糸駒が安定します。



下糸を巻く

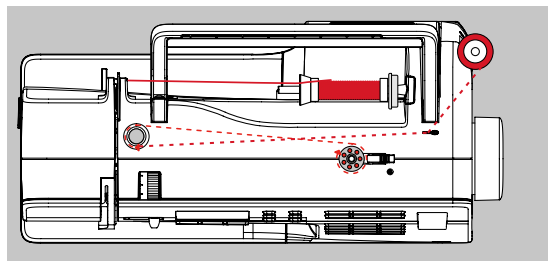


- 電源スイッチをオン「I」にします。
- 空のボビン糸巻き軸に装着します。
- 糸駒を糸駒立てにセットします。
- 糸駒カバーを取り付ける: 糸駒のサイズに合った糸駒カバーを使います。
- 矢印の方向に、糸をガイドしてミシン上、後方の下糸巻き案内に糸を掛けます。
- 糸の先を2-3回空のボビンに巻きつけ、余分な糸端を糸切りで切り取ります。
- 下糸巻き押さえレバーをボビン側に押しやると、下糸巻きが自動的にスタートします。
- ボビンが一杯になると自動的に止まります。



糸切り

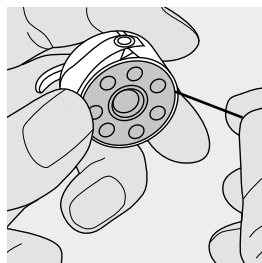
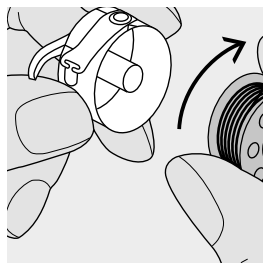
- ボビンを取り出すときに糸を糸切りで切ります。



ソーイング中の下糸巻き

- ソーイング中にも下糸を巻くことができます。もう一個の糸駒を糸縦棒に立てて、下糸巻きの要領で糸を掛けます。
- 下糸巻きと同じ作業を繰り返します。

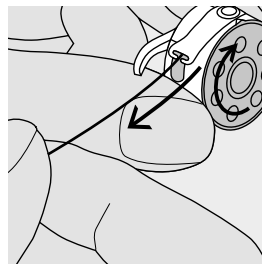
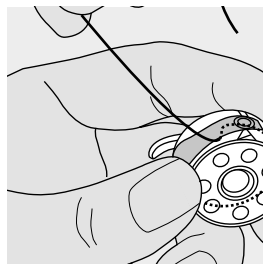
ボビンをセットする



ボビンの糸が時計方向になるようにボビンをボビンケースに挿入します。

切り溝に糸を引き込みます

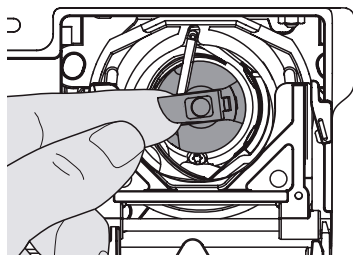
切り溝に沿わせて糸を時計と反対方向に引っ張ります。



糸をバネの下に潜り込ませて引き込みます

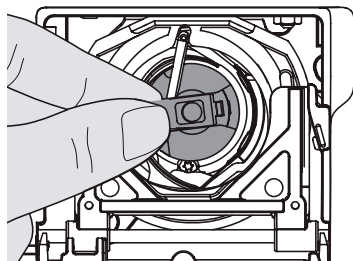
糸がバネの先端のT字型の穴から出てくるように糸を通します。糸を引っ張るとボビンが反時計方向に回るのを確認してください。

ボビンケース



ボビンケースを取り出すには

- 針を上へ上げ、
- 電源をオフ «0» (off)にします。
- 釜カバーを開け、
- ボビンケースの爪の部分を左手で起こしてつまみ、
- 取り出します。

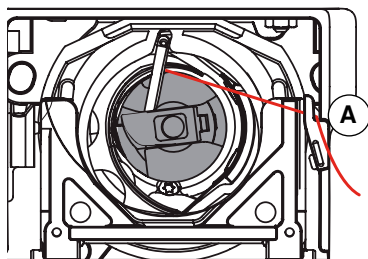


ボビンケースを装着する

- 爪の部分を左手でつまみ、
- つのを上に向けて、
- カチッと音がするまでしっかりと差し込みます。



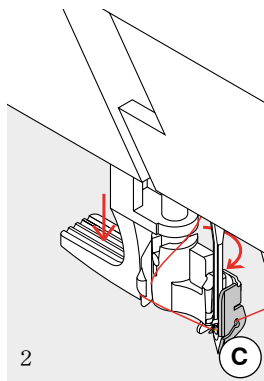
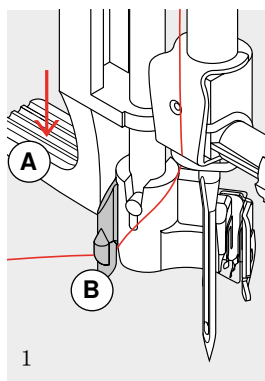
下糸は針板の上に引き出す必要無く、縫い出せます。



糸カッター

- ボビンケースを装着します。
- 余分な糸端をカッター **A** に引っ掛けて切ります。
- 釜カバーを閉じます。

糸通し機



1 レバーを押し下げます

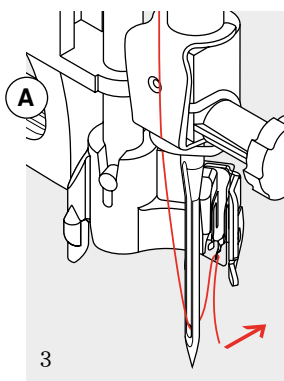
- 針を上げます。
- 押えを下げます。
- 糸を矢印のように前方から後方へ。
- レバー **A** を押し下げ、同時に糸をフック **B** に押し当てながら右方向へガイドします。

2 針の前に糸をガイドします

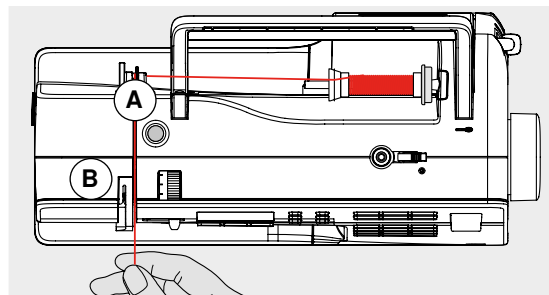
- 糸を前方からガイド **C** に押し付けるようにするとフックに引っ掛かります。

3 レバーを放して糸を通す

- レバー **A** を放すと糸が通ります。
- 糸を押え金の下側にガイドし。
- ミシン左横の糸切りで余分な糸を切ります。

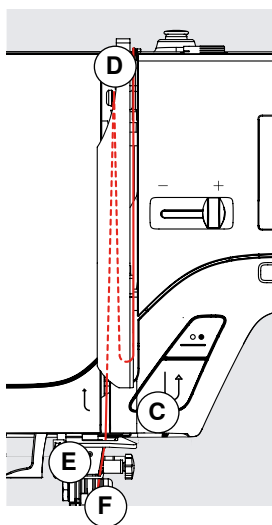
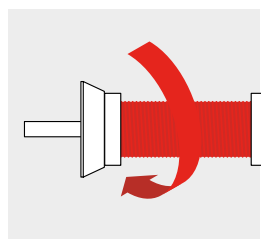
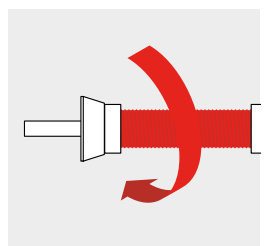


上糸を掛ける

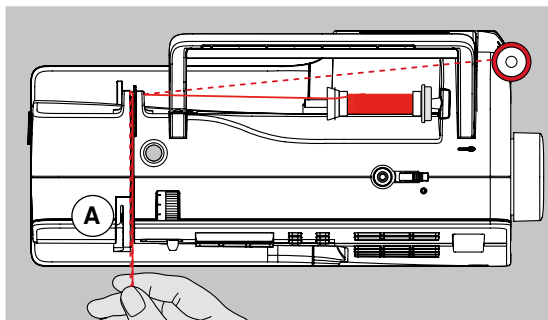


糸駒をセットします

- 押え金を上げて、
- 電源をオフ «0» (off)にします。
- 糸立て棒にクッション付の糸こま土台を取り付けます。
- 糸こまが時計方向に回るようにセットし、
- 糸こま押えで隙間の無いように固定します。糸こま押えのサイズは、糸こまの直径に合うものを選びます。
- ミシン上部の糸案内 **A** に糸を通します。
- 次に上糸テンションダイヤル **B** に通して、
- 天秤カバーの右側に沿って **C** で上に回し、
- カバー **D** の左側に沿って糸を持ち上げ 天秤に糸を通して、
- 最後に **E** と **F** のそれぞれの糸掛けに通します。



二本針に糸を掛ける

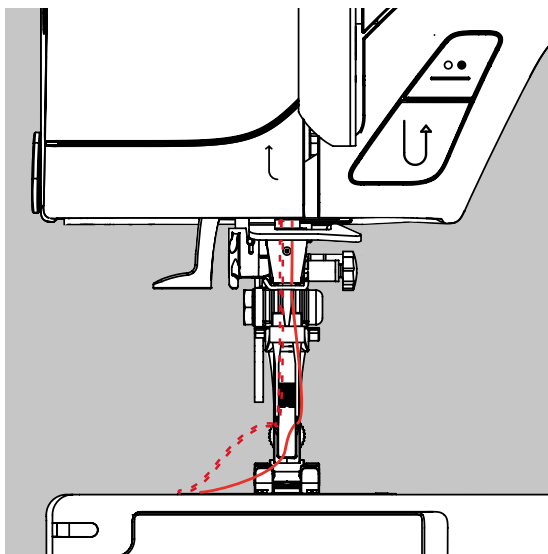


一本目の糸を掛ける

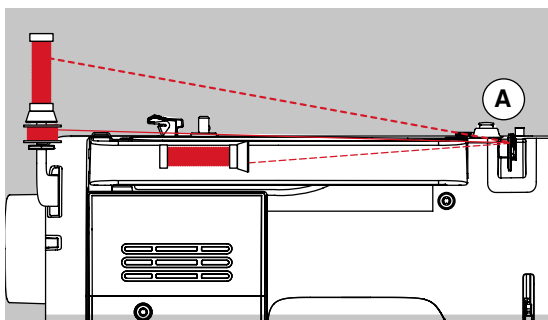
- 糸駒を水平の糸立て棒にセットします。
- 糸をダイヤルテンションのディスクAの右側に通します。
- 後は、通常の方法で糸を掛け右側の針に糸を通します。

二本目の糸を掛ける

- 糸駒を折りたたみ式の垂直糸立て棒にセットします。
- 糸をダイヤルテンションのディスクAの左側に通します。
- 左側の針に糸を通します。
- 二本の糸が途中で絡まないように糸掛けします。

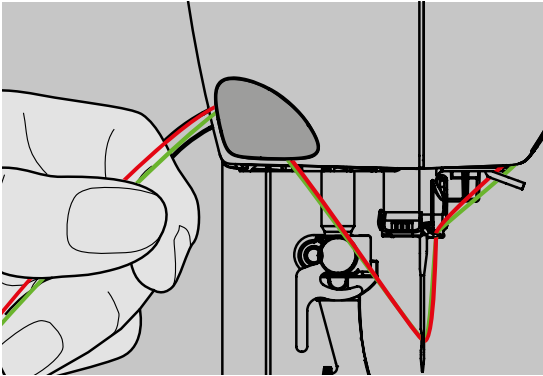


三本針に糸を通す



- 2個の糸駒と糸を巻いたボビン一個が必要です。
- 一つ目の糸駒を水平糸縦棒にセットします。
- 次にボビンを垂直糸縦棒にセットし、中間に糸駒カバーをはさんで、ボビンと糸駒が同じ方向に回るように注意して二番目の糸駒もセットします。
- 糸掛けは二本針の時と同じようにして、二本の糸をダイヤルテンションのディスクAの左側を、三本目の糸をテンションディスクの右側を通して糸掛けします。

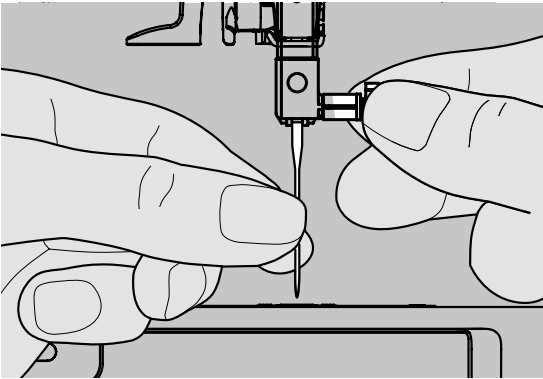
糸カッター



ミシンの左側

- 上糸、下糸両方を前から後ろに向けてカッターの上を通して切ります。
- 糸は縫い出すまで糸切りにホールドされ、自動的にリリースされます。

針の交換



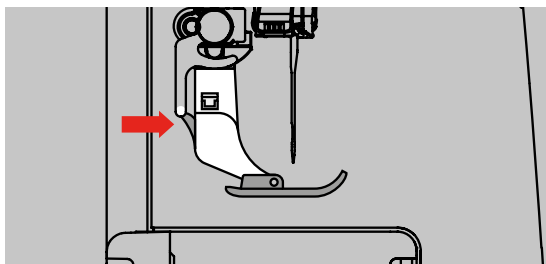
針を交換する

- 針を上げる。
- 電源をオフ«0» (off)にします。
- 押えを下げます。
- 針止めネジを緩めます。
- 針を下に引いて抜き取ります。

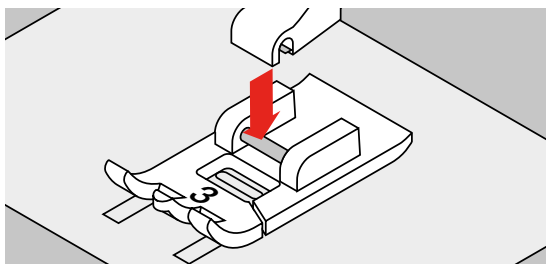
新しい針を取り付けます

- 針の平らな面を後ろに向けます。
- 針が当たって止まるまで上に差し込みます。
- 針止めネジをしっかり締め付けます。

スナップオンタイプ押えを交換する

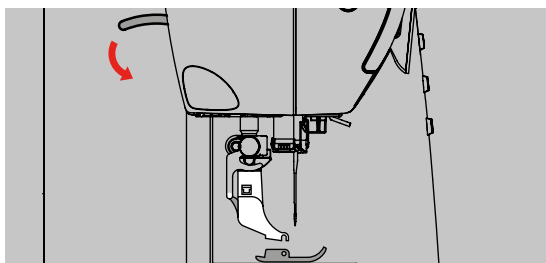


- 針を上げて、押え上げで押えを上げます。
- 電源をオフ<<0>> (off)にします。
- 押えの底を取り外すには押えシャンクの後ろ側のボタンを押します。



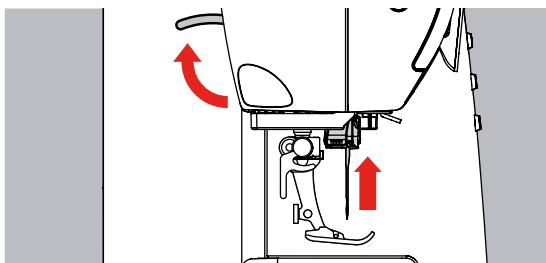
押えの底を取り付けるには

- 押えの底を押えシャンクの下に揃えて置きます。



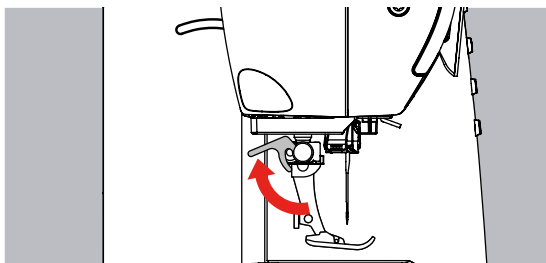
- 押え上げレバーを下げると押えの底がカチンとはまり込みます。

押え金の交換



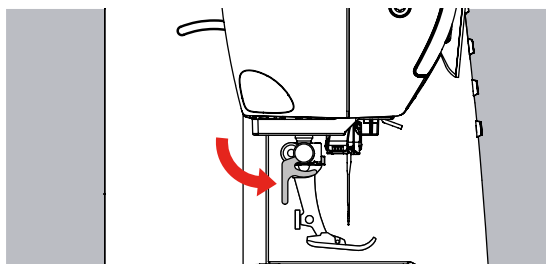
押え金の交換

- 針と押え金を上げます。
- 電源をオフ<<0>> (off)にします。



レバーを上げる

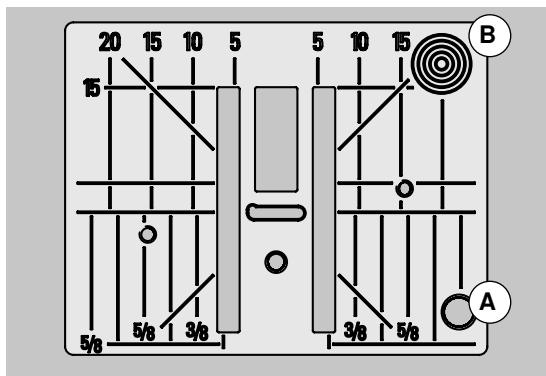
- 押え止めレバーを上げます。
- 押え金を取り外す。



押え金を取り付けるには

- 押えを押え軸の円錐形に合わせて差し込む。
- 押え止めレバーを押し下げて押えを固定する。

針板



針板のシームガイドライン

- 針板の表面にはミリ(mm)とインチ表示で布ガイド用の線が水平、垂直、斜めに刻印されています。
- 刻印されたラインは布地を置く位置の目安として、またトップステッチに便利です。
- 水平の目盛り線はコーナーの仕上げやボタンホールに便利です。
- 斜線はキルティングに便利です。
- 垂直の目盛り線は針位置がセンターにある場合の針からの距離です。
- 針基線が中央の場合、針の位置がセンターです。
- 目盛りは針の中央から左右対称に刻印されています。

針板の取り外し方

- 押え金および針を上げます。
- 電源をオフ<0> (off)にします。
- 針板の右奥Bの角を指先で押し付けます。
- 針板が浮かび上がりますので取り外してください。

針板をセットするには

- 針板をAに合わせて押し付けます。

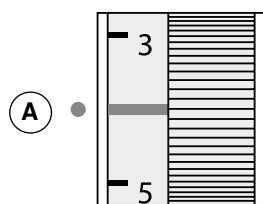
糸調子

上糸調子は工場出荷時に最適の状態に設定されています。この設定には、スイス製のメトラー社から発売されているメトロシーンMetroseneの100/2の糸を上下ともに使用しています。

糸テンションバランスは刺しゅう糸などのように使う糸のタイプにより異なります。布や糸に合わせてダイヤルテンションで糸のバランスを調節してください。

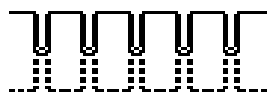
例えば:

	テンション	針
メタリック糸	約 3	90
ナイロン透明糸	約 2-4	80



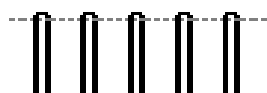
基本セッティング

- 基本は赤くマークされた位置が標準です。A
- 通常のソーイングには調節は必要ないはずですが。
- 特殊なソーイングや糸や布地を使う場合は調節が必要になります。



バランスの良いステッチテンション

- 上下の糸が布の間でロックしている。



上糸調子が強すぎる

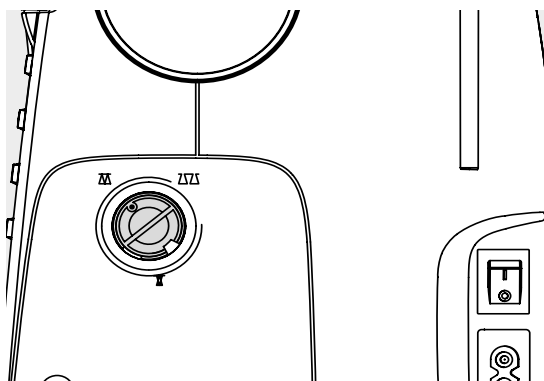
- 下糸が上側に引っ張られている状態。
- テンションを3-1に緩めて調節します。



上糸調子が緩すぎる

- 上糸が下側に引っ張られている状態。
- テンションを5-10に強くして調節します。

バランス調節



模様ステッチは、布や糸のタイプ、また安定紙や芯地の組み合わせにより、針目がつまり過ぎたり、粗過ぎたりして、時には模様が乱れることがあります。

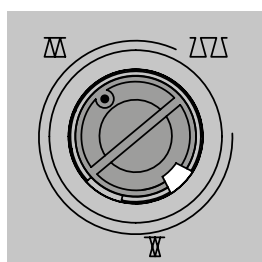
バランス機能を使うと生地やソーイング条件にあったソーイングが可能になります。



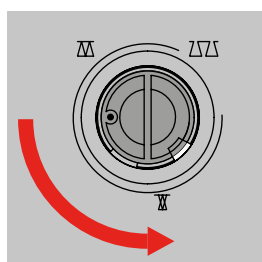
試し縫い

飾り縫いステッチを使う時は、実際にお使いになる布地と糸で必ず試し縫いすることをお勧めします。

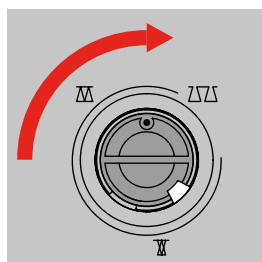
バランスを調節して縫い終わった後は、必ず元に戻してください。



通常の位置



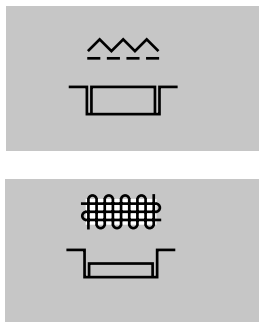
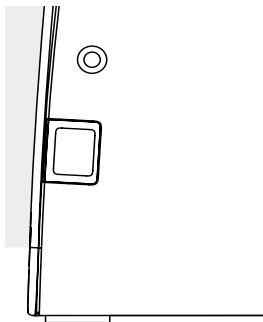
より密な送りの位置 - ステッチパターンを縮めます。
(短い送り)



粗い送りの位置 - ステッチパターンを伸ばします。
(長い送り)

送り歯

送り歯を下げる



ボタンが上がっている= ソーイング用の位置。

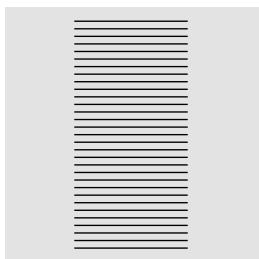
ボタンが押し込まれている= 送り歯が下がっている状態。

■ フリーモーションソーイングに（繕い縫い、刺しゅう、キルティング、その他）。

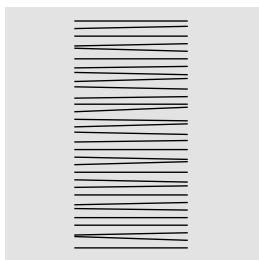
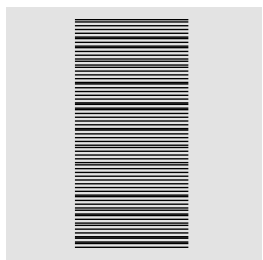
送り歯と布の送りの関係

送り歯は、通常一針毎に一回ずつ布送りをします。この一回の布送り量は、送りダイヤルで調節した長さです。

特に細かい縫い目の場合は、一回の布送りの量もわずかですので、フットコントローラーを一杯に踏み込んでも、布送りの速度はゆっくりしたものとなります。ボタンホールやサテンステッチおよび飾り縫い等は、通常、送りを細かくして縫います。

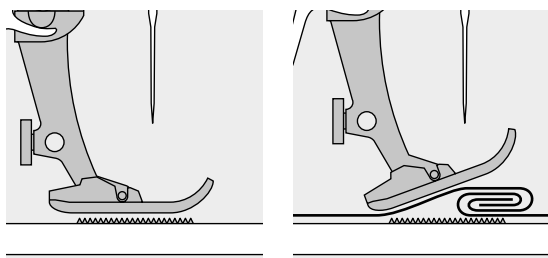


布は均等に送るようにします。



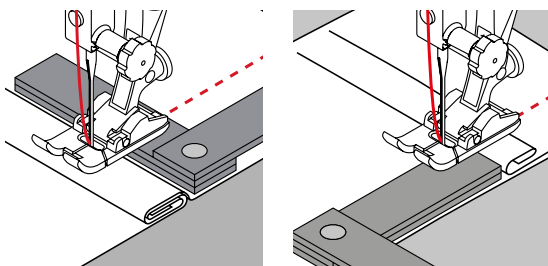
布を押ししたり引いたり、押さえたりすると、針目が乱れてしまいます。

段差のある布地で高さ調節板の使い方



送り歯は、押え金が水平になっている場合、もっとも効果的に働きます。

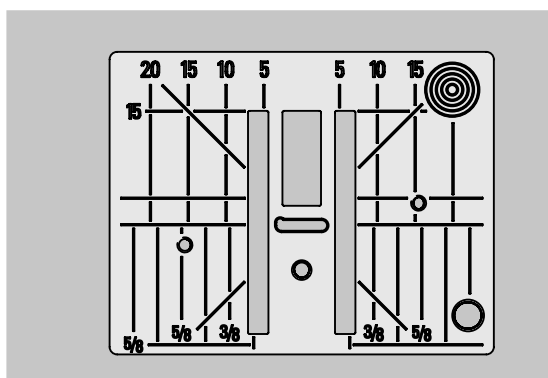
薄地と厚地のつなぎ目を縫う時に、押えが斜めになってしまうと、送り歯は布をとらえることができず、布を送らなくなります。



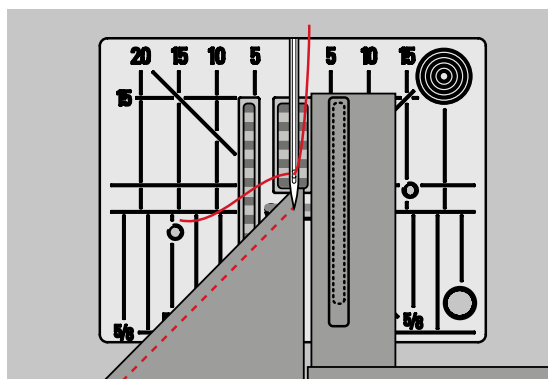
その場合には、図のようにして、高さ調整板を必要な枚数、押えの下に置くようにします。

押えの手前で高さを調整する時は、必要な枚数の高さ調整板を押えの右下側に置きます。布の段差がなくなるところまで縫い進んだら、高さ調整板を外します。

コーナー部分を縫う



角を縫う場合は、送り歯に乗る部分はほんの少しなので、送りがうまくいかない場合があります。



そのような場合には、布端に高さ調整板を当てるようにすると、送りが正常に戻り、縫い目がきれいになります。

糸とミシン針に関する重要事項

糸

目的に応じて糸を使い分けます。綺麗な仕上がりを得るには糸と布の品質が大きな役割を果たします。常に品質の良いものをお使いになることをお勧めします。

コットン糸

- コットン糸は天然の繊維を使った糸で、コットン地を縫うには最適な糸と言えます。
- 絹光沢仕上げを施されたコットン糸はつやがあります。

ポリエステル糸

- 強度があり、変色しない特徴があります。
- フレキシブルで用途が広く特に強度や伸縮を要求されるようなソーイングに最適です。

針、糸および布

針と糸の選択には特に注意が必要です。

正しい針の番手は糸と布地によって決められます。布の質感やタイプにより糸や針のサイズも決まってきます。



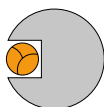
針の状態をチェックする:

針の状態は常にチェックして、できるだけ頻繁に針を交換しましょう。傷んだ針は布地を傷つけるだけでなく、ミシンにも悪い影響を及ぼします。

以下の注意事項を遵守してください:

新しい作品を作る時には必ず新しい針に交換する習慣をつけましょう。

針と糸



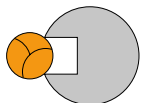
正しい針と糸の組み合わせ

縫うときは、糸が針の前方にある溝に滑らかに収まらなければなりません。



細すぎる糸に太すぎる針の組み合わせ

糸が針の溝の中で踊る状態になり、目飛びや糸切れの原因になります。



太い糸に細い針の組み合わせ

糸が針の溝の壁をこすったり、布と摩擦して糸切れの原因になります。



布地/糸

針サイズ

薄手の布:
細手の糸 (しつけ糸、刺しゅう糸)

70-75 番


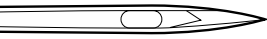
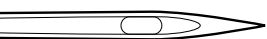

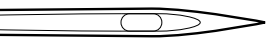
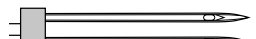
中厚地の布:
標準番手の糸

80-90 番

厚手の布:

100番、110番、120番

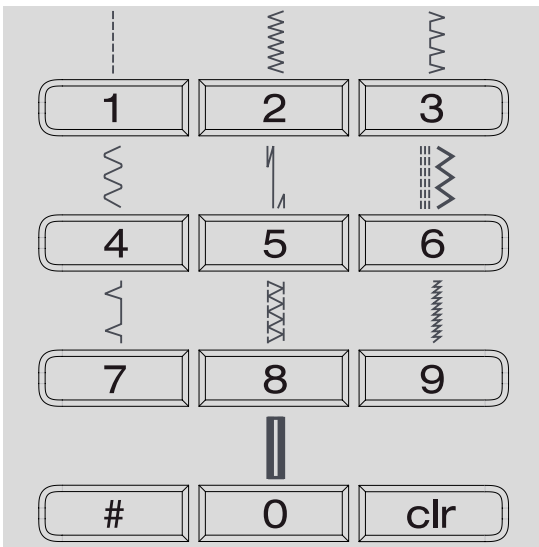
針の一覧表

 <p>標準針 130/705 H/60-100</p> <p>通常の針先、少々丸みを帯びている ほとんどすべての天然および合成繊維（織地およびニット）</p>	 <p>メタフィル針 130/705 H-MET/75-90</p> <p>大きな針穴 メタリック糸用</p>
 <p>ジャージーおよびストレッチ針 130/705 H-S, H-SES, H-SUK/70-90</p> <p>ボールポイント ジャージー、ニット地、伸縮地</p>	 <p>コードネット(トップステッチ)針 130/705 H-N/80-100</p> <p>長めの針穴、小さなボールポイント 厚手の布地のトップステッチ用</p>
 <p>レザー針 130/705 H-LL, H-LR/90-100</p> <p>カッティングポイント 天然皮革、合成皮革、プラスチックフィルムなど</p>	 <p>ウイング針(ヘムステッチ針) 130/705 HO/100-120</p> <p>羽(ウイング)付きの幅広い針 ヘムステッチ用</p>
 <p>ジーンズ針 130/705 H-J/80-110</p> <p>非常に細く鋭い針先 ジーンズ地、キャンバス地、オーバーオール等の厚手の布地</p>	 <p>ダブルウイング針 130/705 H-ZWI-HO/100</p> <p>ヘムステッチ刺しゅうで特殊な効果を創り出します</p>
 <p>マイクロテックス針 130/705 H-M/60-90</p> <p>特別に細く鋭い針先 マイクロファイバーおよびシルク地</p>	 <p>二本針 130/705 H-ZWI/70-100</p> <p>針の間隔: 1.0/1.6/2.0/2.5/3.0/4.0 伸縮地で端縫い飾りステッチ、ピントック、飾り縫いに</p>
 <p>キルティング 130/705 H-Q/75-90</p> <p>細く鋭い針先 直線縫いおよびトップステッチに</p>	 <p>三本針 130/705 H-DRI/80</p> <p>針間の最大幅: 3.0 飾り縫い用</p>
 <p>刺しゅう 130/705 H-SUK/75-90</p> <p>針穴が大きく、微かなボールポイント針 天然および合成繊維への刺しゅう用</p>	

各種機能の説明

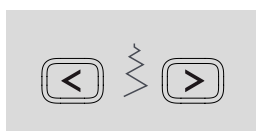


ステッチを選ぶ



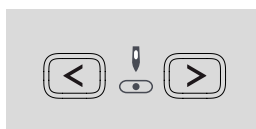
- ステッチ番号1-10:
1から10の番号ボタンを押します。標準の送り長さ、振り幅、針基線が液晶画面に表示されます。
 - 標準ボタンホールの10番は<<0>> ゼロのボタンを押します。
- ステッチ番号11-99:
まず#ボタンを押してそのあと番号ボタンを押します。
- ステッチ番号100から上:
まず#ボタンを2回押してそのあと番号ボタンを押します。

ステッチを調節する



振り幅を変えてみる

- 左ボタン= 振り幅を小さくします。
- 右ボタン= 振り幅を大きくします。
- 標準の振り幅が点滅で表示されています。



針基線を変えてみる

- 左ボタン= 針基線が左側に移動します。
- 右ボタン= 針基線が右側に移動します。



送り長さを変えてみる

- 左ボタン= 送りの長さを短くします。
- 右ボタン= 送りの長さを長くします。



**手元返し縫いボタン
留め縫い:**

- ボタンを押します。
- ボタンを押している間ミシンは後進縫いします。(最大送り長さは3ミリ)

使い方:

- ボタンホールをプログラムするのに使用します。
- つくろい縫いをプログラムするのに使用します。
- 直線自動留め縫いステッチで返し縫いします。
- 縫い始めと縫い終わりで手動での止め縫いに使用します。

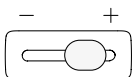
連続返し縫い:

- ボタンを続けて2回すばやく押します。
- 連続して後進します。
- 連続返し縫いを止めるにはボタンを1回押します。



スタート・ストップボタン

- フットコントローラーを使わないときにこのスタート・ストップボタンでミシンをスタート、又はストップさせる事ができます。フットコントローラーが接続されている時は作動しません。



手元スピードコントロール

- スタート・ストップボタンでミシンを操作している時にスピード域を調節することができます。



針上下停止位置機能

標準セッティングでは通常針は上で停止します。(画面の針矢印は上向き)

- ボタンを押すと、
- 下向き矢印= 針は常に一番下で止まります。
- ボタンをもう一度押します。
- 上向き矢印= 針は常に一番上で止まります。



ボタンを長押しします= 針を上下できます。



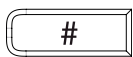
一模様縫い(パターンエンド)

- ボタンを押してオンにします。
- 一つの模様や、メモリーの模様や文字の組み合わせを完成させて自動で縫い終わります。



模様左右反転機能 */**

- ボタンを押します。
- 選んだ模様を反転して縫います。



#-ボタン

- 10番以上のステッチを選ぶときに使います。(24ページ参照)



«clr» クリヤーボタン

- ボタンを押します = 基本のセッティングに戻します。
- 使っている機能を全てオフにします。

例外:

- 針の上下停止
- 自動ボタンホールの長さを標準に戻すには«clr» クリヤーボタンを二回早押しします。

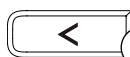


文字、数字、記号 (330 ではブロック体のアルファベットのみ)

- アルファベットボタンを押します。
- フォントが画面に表示されます。
- アルファベットボタンを繰り返し押して希望の書体を選びます。
- 右ボタンを押すと文字が昇順にスクロールします。(A B C ...)
- 左ボタンを押すと文字が降順にスクロールします。(@ Ç ?...)

文字の内容

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
À Ö Ü Á Æ Æ Æ Æ Æ Æ Æ Æ Æ Æ
01234567890_-'&?Ç@



メモリー

- メモリーボタン2を押します。
- «mem» が画面に表示されます。
- 最大の記憶数(30文字)が表示されカーソルが点滅します。
- 左ボタン 1 と右ボタン 3 を押すと模様や文字、数字、記号をスクロールできます。
- 表示されたものを保存するにはメモリー右ボタン 3 を押します。

ステッチメモリー機能

- 送り長さや振幅を調節すると一時的にその内容が保存されます。

例えば:

- ジグザグ縫いでステッチの振幅を調節します。
- 別のステッチ(例えば直線縫い)を選びます。
- 再びジグザグ縫いに戻ると先ほど調節した振幅がそのままになっています。

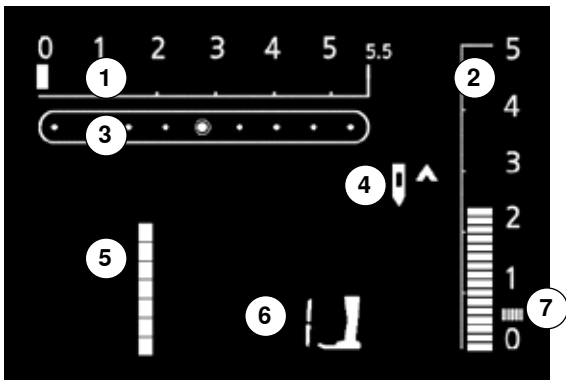
標準のセッティングに戻すには

- マニュアルで振幅ダイヤルを操作して変更を加える。
- «clr»-ボタンを押すと標準に戻せますが、そのほかの機能も全て標準セッティングに戻ります。電源を切ると全て標準に戻ります。

使い方:

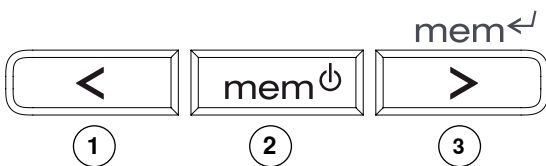
- 全てのステッチに。
- 特にいろんなステッチを使う作業に便利です。

画面の情報



- 1 振り幅 (標準セッティングが点滅しています)。
- 2 送り長さ (標準セッティングが点滅しています)。
- 3 針基線(9ポジション)。
- 4 針停止位置表示。
- 5 ステッチの番号。
- 6 推奨押え金の番号。
- 7 サテンステッチ: 密度の濃いジグザグステッチ。

メモリー機能

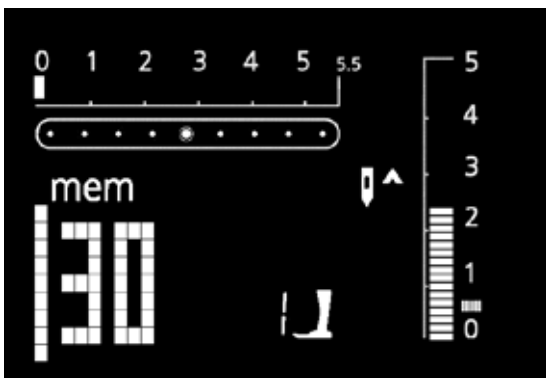


ステッチ、文字、数字、記号などを組み合わせて、最大30個まで記憶します。恒久メモリーです。消去するまでは、電源を切っても消えません。送り長さや振り幅、針基線などの機能を使ってメモリーの内容を変更することも可能です。メモリーの内容の一部を消去したり上書きしたりできます。

メモリーボタン

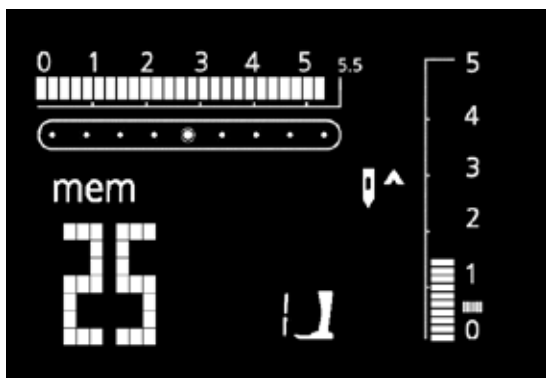
- メモリーの内容を降順に表示するには左ボタン**1**を使います。
- メモリーを開いたり閉じたりするにはメモリーボタン**2**を使います。
- メモリーに記憶させる時や、メモリーの内容を昇順に表示するには右ボタン**3**を使います。

実用縫いと飾り縫いをメモリーにプログラムするには



メモリーを開く

- メモリーボタン**2**を押します。
- 画面には縦棒のカーソルが点滅し、最大記憶数の30個が表示され、「mem」の表示が現れます。
- お好みのステッチを選択します
- ステッチの番号が画面に表示されます。
- 右ボタン**3**を押します
- ステッチが記憶されました。
- さらに記憶可能な残数が表示されます。
- 次に記憶させるステッチを選び、同様に記憶させます。



縫い方:

- フットコントローラーを踏み込みます = ミシンが記憶したステッチの組み合わせを縫い始めます。
- 一模様縫い機能をオンにします = 一組の模様の組み合わせを縫い終わると自動的にミシンが停止します。



以下の特殊なステッチはメモリーに記憶させることはできません。

モデル330:

- No. 5 留め縫い
- No. 10 ボタンホール
- No. 11 ボタン付けステッチ
- No. 16 自動繕い縫い

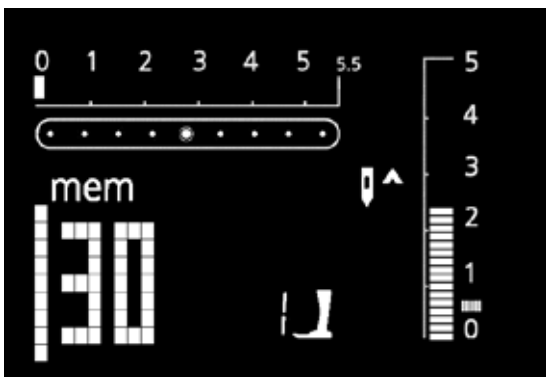
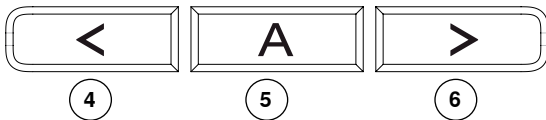
モデル350:

- No. 5 留め縫い機能
- No. 10-11 ボタンホール
- No. 12 ボタン付けステッチ
- No. 13 アイレット
- No. 20 自動繕い縫い
- No. 21 しつけ縫い

モデル380:

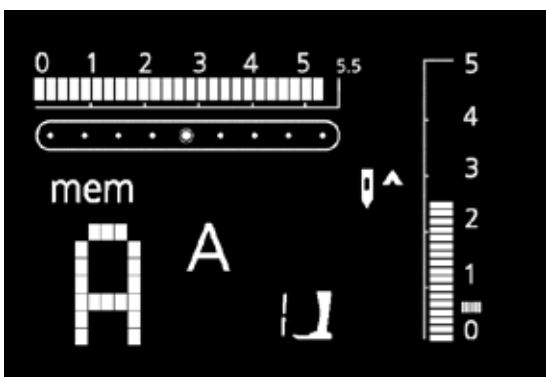
- No. 5 留め縫い機能
- No. 10-13 ボタンホール
- No. 14 ボタン付けステッチ
- No. 15 アイレット
- No. 22 自動繕い縫い
- No. 23 しつけ縫い

文字や記号を記憶する



メモリーを開きます

- メモリーボタン **2**(前頁)を押します。
- カーソルと入力可能なメモリー数30が点滅して表示され、「mem」が画面に表示されます。
- 文字ボタン**5**を押して文字を選びます。
- 選んだ文字Aが表示されます。
- 矢印ボタン **4** と **6** を使って文字を昇順、又は降順に順次表示して、文字または数字を選びます。
- ボタン**3**(前頁)を押します = 文字や数字が記憶されました。
- 残りのメモリー数が表示されます。
- 同じようにして文字や数字を記憶してゆきます。
- 一つ以上の単語を記憶させる時は_(下線)でつないで続けて入力します。

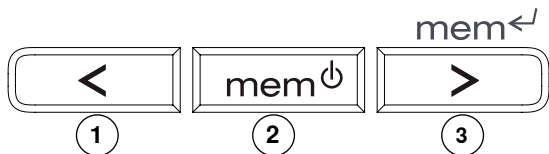


送り長さや振り幅、針基線を変えて入力すると変更されたステッチや文字が記憶されます。
文字や数字の送り長さや振り幅を変えたい時は個々に変更して記憶させます。

メモリーに記憶した内容を変更する

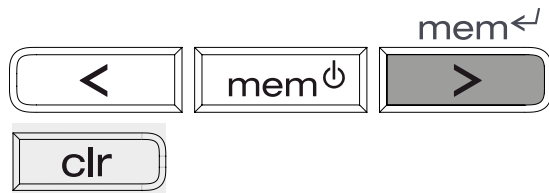
記憶されたメモリーの内容は電源を切っても失われません。いつでも呼び出せます。

メモリーの内容は変更後必ずボタン **2** を押してメモリーを閉じます。さもなくば、電源を切ると記憶内容は失われます。



模様、文字、数字を上書きする

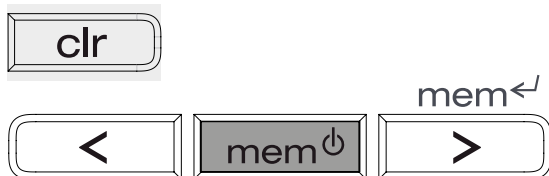
- 右ボタン **3** または左ボタン **1** で内容をスクロールして、上書きしたい箇所を見つけます。
- 上書きするステッチを選び、送り長さ、振り幅、針基線を決めます。
- 右ボタン **3** を押すと上書きが完了します。



記憶された内容を個別に消去する

- 右ボタン **3** 又は左ボタン **1** でスクロールして消去したいものを見つけます。
- «clr» クリヤーボタンを押します。
- 選んだものが消去されました。

メモリーの内容を完全に消去する



- «clr» クリヤーボタンを押したままでメモリーボタン **2** を押します。
- 両方のボタンを離します。
- ボタン **2** を押すとメモリーを閉じます。
- メモリーの内容が全て消去されました。

メモリーを閉じる



- ボタン **2** を押します = 中味が保存されました。
- メモリーが閉じられました。
- «mem» が画面から消えました。

実用縫いステッチ



直線縫い
非伸縮性の布地; あらゆる直線縫い作業に。



ジグザグ縫い
あらゆるタイプの布地に; オーバーキャストステッチのようなシンプルなジグザグ縫いに。伸縮地やレースに。



バリオーバーロック
主に薄地のジャージー、ストレッチオーバーロック縫いや、端縫いに。



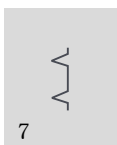
ランニングステッチ
あらゆる布地に。繕い縫い、接ぎ当て、補修などに。



自動直線留め縫いステッチ
あらゆる布地に。ステッチの始めと終わりを直線で留め縫いします。



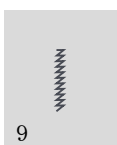
トリプルステッチ、トリプルジグザグステッチ
堅い、厚地での補強に。



まつり縫い
あらゆる布地に。くけ縫いやソフトなジャージ、薄地のシェルタック、飾り縫いなど。



ダブルオーバーロック
あらゆるニット地に。縫うと同時に縁の始末ができます。



スーパーストレッチ
スーパーストレッチ布地の縫い合わせに。



ギャザーステッチ
あらゆる布地に。シャーリング、エラスティックに。キルト芯を突き合わせての縫い合わせに。



ストレッチオーバーロック
中厚地のニット地、タオル地、堅い織り地に。オーバーロック縫いや、フラットシームに。



ジャージステッチ
天然繊維、混紡、伸縮地、デリケートなニット地などに。飾りステッチ、縁縫い、繕い縫いなどに。



ユニバーサルステッチ
フェルトやレザーのようなしっかりした布地に。重ね縫い、縁取り、ゴムひもの縫い付け、飾り縫いなどに。



ライクラステッチ
全方向性伸縮地に。重ね縫い、縁縫い、下着などの補強に。



ストレッチステッチ
あらゆる伸縮地に。スポーツウエアなどの縫い合わせに。



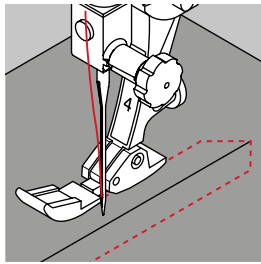
自動繕い縫い
中～厚地で自動で繕い縫いをします。



ネットステッチ
あらゆるインターロック地、滑らかな表面の生地などに。飾り模様や縁縫いに。

使い方の用例

ファスナー



ファスナー押えNo. 4

直線縫い

準備

- しつけをかけて、縫い代をきれいに始末しておきます。
- ファスナーをしつけ縫いするか、まち針で留めて、布の折り返した両方の端がファスナーの中央部分で突き合うようにします。

縫い方

- ファスナーを少しだけ開きます。
- 左側の上から縫い始めます。
- ファスナーのコイル部分に沿って縫える位置に押え金を置くようにして下さい。
- ファスナーの引き手の手前まで来たら、針を刺したまま、一旦停止します。押え金を上げて、ファスナーを閉めます。
- 再び縫い続けます。(針下位置停止機能を使って下さい。)
- 針を刺したまま布を回して、下部分を縫います。
- また針を刺したまま布を回し、右側を下から上に向かって縫っていきます。

応用: 両側を下から上に縫う

- ベルベット等の毛足の向きのある布地に最適です。
- 上記のようにファスナー付けの準備をします。
- 片側を下から上に向かって縫い付けます。
- 次に、もう片方も同様に下から上に向かって縫います。



ファスナーの引き手の回りを縫う

- ファスナーを閉じて、引き手から5cm程度のところまで縫います。
- 針を刺したまま停止し、押え金を上げます。ファスナーを開いて、引き手を針をかわして下げたら、再び押え金を下げて縫い続けます。

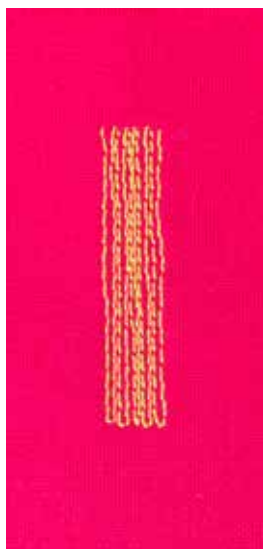
縫い始め

糸をしっかり持って縫い始めます= 最初の2~3針は布地をわずかに後ろに引き加減にします。

ファスナー地は厚くまた堅い

ステッチを均一にするために、90/14-100/16番の針をお薦めします。

自動繕い縫い



標準押え金No. 1

布ガイド付自動ボタンホール押えNo. 3A

自動繕い縫い

ほころびや擦り切れた部分を、すばやくしっかりと繕います
布の縦目の繊維を補強して繕います。

標準押えNo. 1 (ステッチカウント機能を使う)

- ほつれた箇所の左上に針を刺します。
- 最初の列をほつれをカバーする長さまで縫います。
- 手元返し縫いボタンを押すと、長さが記憶されます。
- 繕い縫いを続けると、ミシンは自動的に止まります。
- 記憶した長さを取り消すには «clr» クリヤーボタンを押します。

順番に繕う場所を押えの下に移動して全体をカバーします。

布ガイド付自動ボタンホール押えNo. 3A を使う

- 小さな穴とか、小さなかぎ裂きなどに適しています。最大30mmまで縫えます。
- 標準押えNo1を使うのと同じ要領で縫います。



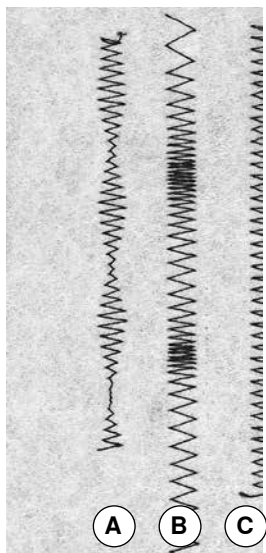
補強縫い

布地やのり付きの安定紙を下に敷きます。

準備

布地がパッカーリング (縮む) しないように布地を枠にはめます。

ジグザグ



標準押えNo. 1

- すべての布地に使えます。
- オーバーキャストイング
- エラスティックソーイング
- 飾り縫い

オーバーキャストイングエッジ

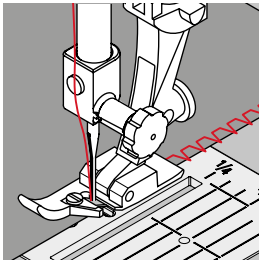
- 布端を押え金の中央に合わせます。
- ステッチの幅が広くなり過ぎず、送りも長くなり過ぎないように。
- ジグザグの片側は布を刺し、反対側は布端すれすれの外側を刺すようにします。
- 布端を巻き込まずにフラットに仕上がるように。
- 薄手の布地には、細いダーニング用の糸を使います。

サテンステッチ

- 送り長さが0.5-0.7mm位の短く密度の高いジグザグステッチ。
- アププリケや刺しゅうに。

- A 振り幅を調節したジグザグステッチ
- B 送り長さを調節したジグザグステッチ
- C 布端の仕上げに使ったジグザグステッチ

バリオーバーロック



オーバーロック押えNo. 2
標準押え金 No. 1

バリオーバーロックステッチ

オーバーロック押え2番は特別にオーバーロック用にデザインされた押えです。押えの裏側のピンが布端を巻き込まないように工夫されています。

縫い合わせに

シルクニットやインターロック等の薄く柔らかい伸縮地に適しています。

縫ってみる

- 裁ち目を押えのピンの下側に沿わせるようにして進めます。
- 布端が巻き込まないように縫うには、ピンを布端の外側に合わせます。



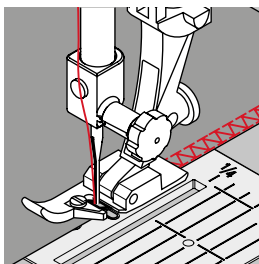
ニットとジャージー地

ニット地を傷つけて穴を開けないように新しいニット用のボールポイント針を使いましょう。

伸縮性のある布地を縫う場合

必要に応じて、ボールポイント針 (130/705H-S) をご使用下さい。= 針先で繊維を傷つけることなく縫えます。

ダブルオーバーロック



オーバーロック押えNo. 2
標準押え金No. 1

ダブルオーバーロックステッチ

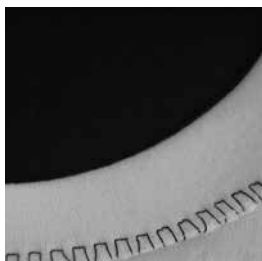
縫い合わせに

目の粗いニット地やジャージーのオーバーロック縫いに。

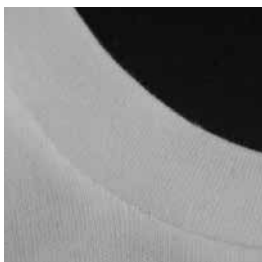
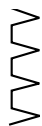
縫い方

オーバーロック押え下側のピンの部分に裁ち目を合わせるようにして縫います。

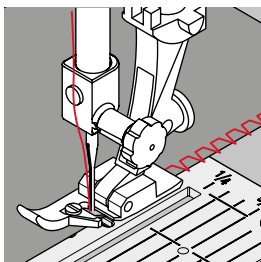
リブ付に



裏側



表側



オーバーロック押えNo. 2
標準押え金No. 1

バリオーバーロックステッチ

薄手のコットン、伸縮地、ジャージーなどに。

準備

- 襟周り(リブ)を半分に折り。
- リブと襟周りの中表に合わせ、まち針を打つか、しつけをします。

縫い方

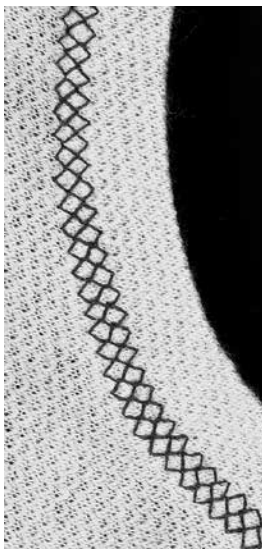
- 布端にバリオーバーロックをかけます。
- その際、布端を押えのピンに沿うようにガイドします。
- 布端が巻き込まないように縫うには、ピンを布端の外側に合わせます。



針下位置停止機能

この機能を使えば、襟周りや袖周りを揃えたりするのに途中でミシンを止めても針が生地に刺さったまま残るので、ずれが起こりません。

ネットステッチによる襟つけ



標準押えNo. 1

ネットステッチ

あらゆる種類のジャージ地(木綿、ウール、化繊および合織)に適しています。

準備

襟周りでリブを1cm重ね、必要ならまち針を打ちます。

縫い方

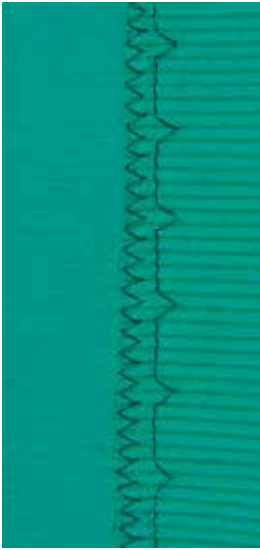
- 表側からリブの端に沿って縫います。
- 裏側で縫い目からはみ出た縫い代を切り取ります。



針下位置停止機能

この機能を使えば襟周りや袖周りを縫う途中でミシンを停止しても、針が生地に刺さったままで残るので、ずれがおこらず便利です。

まつり縫い



まつり縫い押えNo. 5

ヘムのまつり縫い

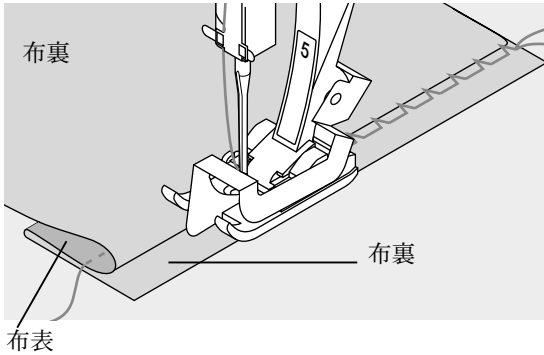
中～厚地のコットン、ウール地や混紡などの布地でのまつり縫いに。

準備

- 布端を切りそろえます。
- 布端を折って、しつけをかけるか、待ち針で留めます。
- 図を参照して、布の端が僅かに折った部分より飛び出すように折曲げます。
- 図のように押えのガイドが折り曲げた布地の折山に沿うように置きます。

縫い方

- 左にジグザグした時に、針が折り目の端ぎりぎりをとらえるように注意して縫います。
- 生地に合わせて振り巾を調整します。
- 10cmほど縫ったら、生地の表裏をチェックして、必要であれば再度振り巾を調整します。
- スナップオンタイプのまつり縫い押えの布ガイド板はネジを回して左右に動かして位置を調節できます。



縫い目を均一に、また幅を揃えるには
折り目の端を、押えのガイド金具に沿って進めると、仕上がりがきれいになります＝均等なかかり。

自動直線留め縫い



標準押えNo. 1

留め縫いプログラム

- あらゆる布地に適用できます。
- 縫い始めおよび縫い終わりを留め縫いします。

長く縫うとき

- 縫い始めおよび縫い終わりを簡単に留め縫いできます。
- ステッチの数が決まっているので、均等に留め縫いできます。

縫い始め

- ミシンが自動的に縫い始めを留め縫いします。(5針前進、5針後進)
- その後、前進で直線縫いをします。



縫い終り

- 針元返し縫いボタンを押す。ミシンが自動的に留め縫いを行います。(押した位置から5針後進、5針前進)
- 留め縫いが終了すると、ミシンは自動的に停止します。

ボタンホール縫い



標準ボタンホール
薄地や中厚地などで、ブラウスやカッターシャツ、子供服、ぬいぐるみなどのボタンホールに。



直線ボタンホール
玉縁ボタンホール(自動の#3A押え使用)、玉縁ポケット(押え#3使用)に。



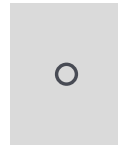
ストレッチボタンホール
コットン、ウール、シルクや伸縮地に。



ボタン付けステッチ
二つ穴、四つ穴ボタンの縫い付けに。

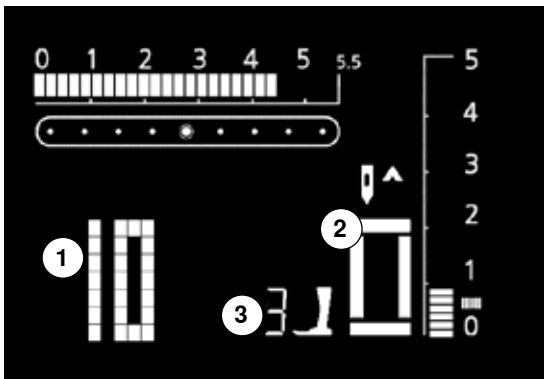


はと目ボタンホール
厚地、非伸縮地、ジャケット、コート、レジャーウェアに。



直線アイレット
コード穴、リボン穴、飾り縫いに。

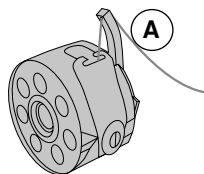
ボタンホール縫いで大切なこと



ボタンホールステッチは穴かがりだけではなく、飾り縫いとして使っても大変きれいなステッチです。

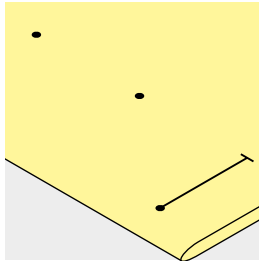
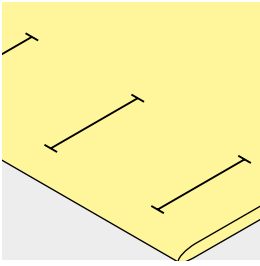
ボタンホールステッチを選ぶと下図のような画面が表示されます：

- 1 ボタンホールステッチ番号
- 2 ボタンホールのシンボルマーク(点滅)
- 3 押え金番号表示



ボタンホール用の糸調子

- ボビンケースのつの部分の穴 **A** に下糸をに通します=下糸のテンションが少し強くなります。
- 上糸が下側に引かれて、穴かがりが布表側で丸く仕上がります。
- 綺麗なボタンホールが出来上がります。
- 芯糸を入れると、補強でき、また見栄えも良くなります。(38ページ参照)

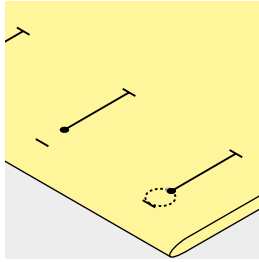


マニュアルボタンホールの印のつけ方

- お好みの場所に、必要な数のボタンホールの長さの印を付けます。
- ボタンホール押え金No. 3 **/**/**

自動ボタンホールの印のつけ方

- ボタンホール一つ分の印を付けます。
- この最初のボタンホールを縫うと、あとは自動で同じボタンホールを縫えます。
- 2番目以降のボタンホールは、縫い始めのみに印を付けます。
- 布ガイド付自動ボタンホール押え金No. 3A



はと目ボタンホールの印のつけ方

- はと目部分を除いた穴かがり部分の長さのみの印を付けします。
- はと目部分は自動的に追加して縫われます。

試し縫い

- 実際に使う予定の布と安定紙で、必ず試し縫いを行って下さい。
- お好みのボタンホールを選択します。
- ボタンホールは、布の方向、水平、垂直方向、布の順目、逆目には関係無く、常に同じ方向に縫います。
- ボタンホールを切り開きます。
- ボタンを通してみます。
- もし長さ等に問題があれば、調整します。

穴かがり幅を調節するには:

- 振り幅を調整して下さい。

ステッチの密度を調節するには:

- 送りの長さの変更は常に左右の穴かがりの縫い目の長さに影響します。(密、粗、いずれの場合でも)
- 送り長さを調節した後、再度試し縫いしてボタンホールを記憶させて下さい。

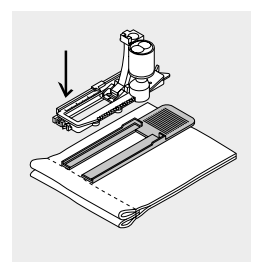
送りバランスの微調節

ボタンホールでは両側を同一方向に縫いますので、バランスを調節すると、両側の穴かがりを均等に調節します。

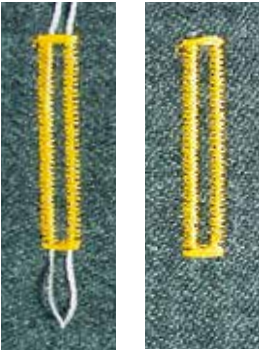


ボタンホール高さ調節板：(別売りオプション) 布ガイド付ボタンホール押えを使うときに、押えの先端が縫い代に乗り上げてうまく布送りしない時には、この調節板のご使用をお勧めします。高さ調節板は押えの後ろ側から押えと布との間にスライドさせ、段差を解消するようにセットします。

ボタンホール縫いが終わったら、必ずバランス調節を元に戻して下さい。



芯糸を使った標準ボタンホール

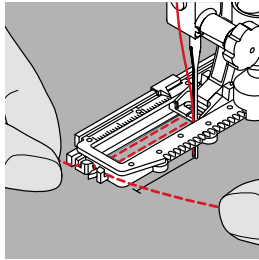
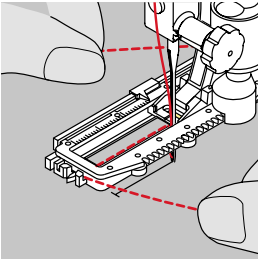


芯糸の効果

- 芯糸はボタンホールを補強し、型くずれを防ぎ、見栄えを良くします。
- 芯糸の輪の部分、通常もっとも力のかかるボタンホールの端にくるように入れます。ボタンが止まる位置が、芯糸の輪の部分にくるように一致させます。
- 以上に注意して、図のように押えの下に布を置きます。

理想的な芯糸のタイプ

- レース糸8番。
- 手縫い用の丈夫な糸。
- 細めのレース編み用の糸。

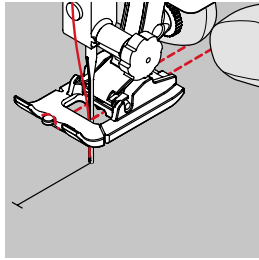
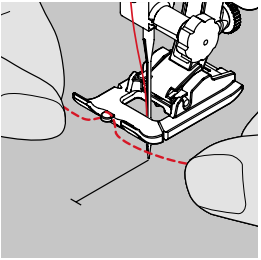


布ガイド付押え金No. 3Aに芯糸を掛ける

- ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- 押え金を上げます。
- 芯糸を押え金の後ろ側で両手で持ちます。
- 芯糸を押え金後ろのピンに引っ掛けます。
- 芯糸を押え金の下を回して前に引き出します。
- 芯糸を押え金の止め具に引っ掛けます。

縫い方

- 芯糸から手を放して、ボタンホールの縫い方に従って縫います。
- 芯糸を包むように、ボタンホールが完成します。

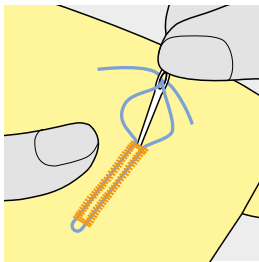


マニュアルボタンホール押え金No. 3 **/***(オプション)に芯糸を掛ける

- ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- 押え金を上げます。
- 芯糸を押え金の前中央にあるピンに引っ掛けます。
- 芯糸の両端を押え金の下側の二本の溝に沿って後ろへ引きます。
- 押え金を下げます。

縫い方

- 芯糸から手を放して、ボタンホールの縫い方に従って縫います。
- 芯糸を包むように、ボタンホールが完成します。

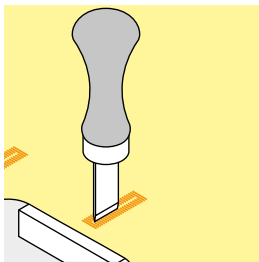
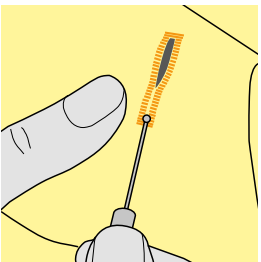


芯糸を留める

- 芯糸を引っ張って、ループ部分がボタンホールの縫い目の端に隠れるようにします。
- かかり針を使って、糸端を裏側に出します。
- そこで結ぶか、留縫いします。



短いボタンホールの場合はバータック部にまち針を安全のため刺しておくといいでしょう。



シームリッパーを使ってボタンホールを開ける

- シームリッパーを使って、中央から端にかけて穴をカットします。

カッターとブロックを使ってボタンホールを開ける

- 布をブロックの上におきます。
- カッターを、ボタンホールの中央に当てます。
- 手で、またはハンマーを使ってカッターを押し込み、カットします。

自動で縫う標準ボタンホール



布ガイド付自動ボタンホール押え金No. 3A

自動標準ボタンホール

布ガイド付自動ボタンホール押え金No. 3Aについてセンサーでボタンホールの長さを自動的に読み取り、繰り返し同じ長さのボタンホールを縫います。

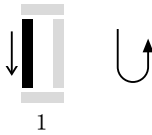
- ボタンホールの各ステップが液晶画面に点滅表示されます。



自動ボタンホールプログラムが選ばれると、画面には押え金番号3が表示されます。



自動ボタンホール押えNo.3Aは必ず布地に対して完全に平らに置いてください。もし押えの一部が布から浮き上がっていたりすると正確に縫えません。



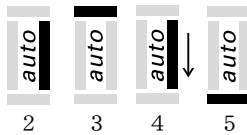
1

ボタンホールをプログラムする

1. 左側穴かがりを前進で縫い、適当な長さでミシンを止めます。

- 手元返し縫いボタンを一回押します。

«auto» の文字とボタンホール押えの番号3Aが画面に表示されボタンホールの長さがプログラムされました。



2

3

4

5

ここからはミシンが自動的にボタンホールを縫い始めます:

2. 右側を直線で後進して縫い、.

3. 環止めを縫い、.

4. 右側を前進で穴かがりし、.

5. 手前の環止めを縫い、留め縫いをします。

- その間、ミシンが止まるまでフットコントローラーを踏み続けてください。押え金を上げると次のボタンホールを縫う位置に戻ります。

自動ボタンホール

- 次のボタンホールからは同じ長さで自動的に縫います。(その都度手元返し縫いボタンを押す必要はありません。)
- ボタンホールを終えるには«clr» クリヤーボタンを押します。
- プログラムしたボタンホールのサイズは恒久メモリーに保存されます。(42ページ参照)



ソーイングスピード

- 中くらいのスピードで縫いましょう。
- 同じスピードで縫うのが穴かがりの縫い目を揃える秘訣です。

自動はと目ボタンホール



布ガイド付自動ボタンホール押え金No. 3A

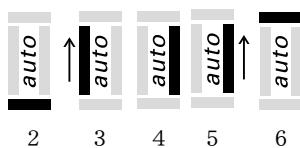
自動はと目ボタンホール



1

最初のボタンホールをプログラムする

- 最初の穴かがりを前進の直線縫いで必要な長さだけ縫いミシンを止めます。
 - 手元返し縫ボタンを一回押します。
 «auto» の文字と押え金番号 3A 画面に表示され、ボタンホールの長さがプログラムされました。



2

3

4

5

6

- 自動ではと目を縫います。
- 左側の穴かがりを後進ジグザグで縫います。
- 右側を直線で縫います。
- 右側の穴かがりを後進ジグザグで縫います。
- 環止めを縫って留め縫いをします。
 - ミシンは自動的に止まり、次のボタンホールの縫い始めに戻ります。

自動ボタンホール

- 次のボタンホールからは全て同じ長さで自動的に縫います。(手元返し縫いボタンを押す必要はありません)。
- ボタンホールを終えるには «clr» クリヤーボタンを押します。
- 記憶されたボタンホールのサイズは恒久メモリーに残ります。(42ページ参照)



正確な連続二度縫い

自動機能を使って同じボタンホールを正確に二度縫いすることができます。

はと目ボタンホールの二度縫い

- 厚い布地でははと目ボタンホールを二度縫いするとしっかりした仕上がりになります。一度目は送り長さを少し大きくします。ボタンホールの長さは変わりません。
- 最初のボタンホールを縫い終わった後、そのまま押え金も布地も動かさないで下さい。
- 二度目は送り長さを少し短くしてフットコントローラーをもう一度踏むだけです。

マニュアルボタンホール(全タイプ)



マニュアル式ボタンホール縫いは、一つだけ特殊なサイズのボタンホールを縫ったり、既存のボタンホールの補修などに便利です。

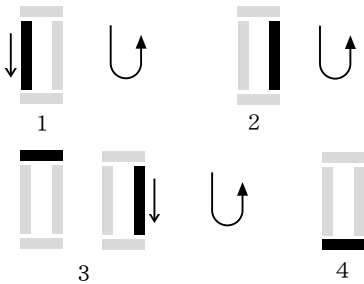
手順はボタンホールのタイプにより異なります。また、ステップを飛ばしたり、繰り返すことも可能です。

マニュアル式で縫ったボタンホールは記憶させることはできません。

ボタンホール押え金No. 3 */**/**

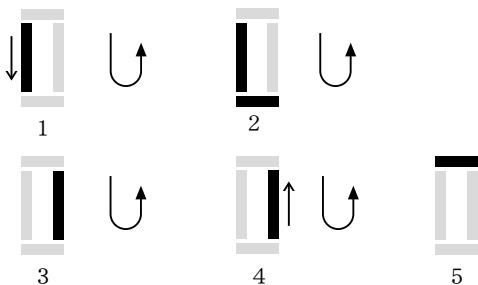
準備

- お好みのステッチを選びます。
- 次の情報が表示されます:
- 選んだステッチの番号。
- ボタンホール押え金No. 3
- ホールのイラストレーション。(最初に縫う穴かがり部分が点滅しています)
- 下糸をボビンケースのつのに通します。



マニュアルで標準ボタンホールを縫う

1. 最初の穴かがりを必要な長さまで縫います。
 - ミシンを止めます。
 - 手元返し縫いボタンを押します。
2. 右側の穴かがりを直線の後進で縫い進み、最初の位置でミシンを止めます。
 - 手元返し縫いボタンを押します。
3. 上の環止めを縫い、右側の穴かがりを縫い、ミシンを止めます。
 - 手元返し縫いボタンを押します。
4. 手前のバークックを縫い、自動的に留め縫いをして止まります。



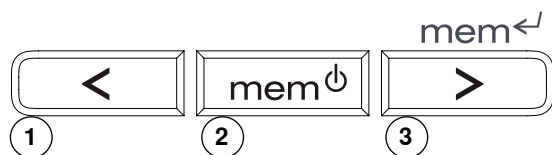
マニュアルではと目ボタンホールを縫う

1. まず左側の穴かがりを直線で縫い、適当な長さでミシンを止めます。
 - 手元返し縫いボタンを押します。
2. はと目を縫い左側の穴かがりを縫ってゆきます。ミシンを最初の位置で止めます。
 - 手元返し縫いボタンを押します。
3. 次に、右側を直線で縫い進み、はと目の位置でミシンを止めます。
 - 手元返し縫いボタンを押します。
4. 右側の穴かがりを後進で縫い始めます。左側の穴かがりの始まりに揃えてミシンを止め。
 - 手元返し縫いボタンを押します。
5. 環止めを縫い、留め縫いをして自動的に止まります。



左右の穴かがりを同じスピードでゆっくり縫います。

ボタンホールを記憶させるには



縫ったボタンホールを長期に保存する

- 縫った直後にメモリーボタン**3**を押します。
- ボタンホールはメモリーに保存されました。

保存したボタンホールで縫う

保存したボタンホールはミシンの電源を切っても再び呼び出して縫うことができます。

- ボタンホールを選びます。
- ボタン**2**を押します。
- 保存していたボタンホールを縫えます。
- 個々のボタンホール縫いに対して一つのサイズのみ保存できます。送り長さを変更したものを上書き保存するにはボタン**3**を押します。

ボタン付けステッチ



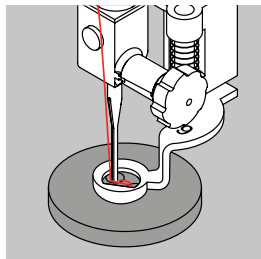
ダーニング押え No. 9 */**/**

ボタン付け押え No. 18 */**/**

二つ穴又は四つ穴のボタンを縫い付けます。

ボタンを縫い付ける

- ボタンを飾りとして縫い付けるときはボタンを浮かせないで縫い付けます。
- ボタンを浮かせて厚みを持たせたい時は高さ調節機能付のボタン付け押えNo.18が便利です。



ダーニング押えNo.9を使ってボタンを縫い付ける

- ボタン付けステッチを選びます。
- ボタンの穴の距離を弾み車を手で回して計り、振り幅を調節します。
- 縫い始めは上下の糸を指で持ちスタートします。
- 自動でボタンを縫い始めます。
- ミシンが自動的に止まるまで縫い続けます。次のボタンを縫いましょう。

始めと終わりの糸始末

- 糸は留め縫いされています。余分な糸を切り取ります。

糸の始末

- 両方の糸を布地の裏側に引っ張り出して結びます。
- 糸の端を切り取ります。



ボタン付け押えNo.18でボタンを縫い付ける

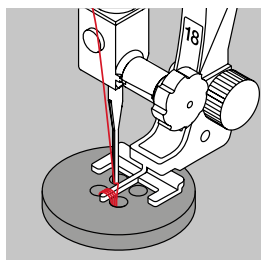
- 押えのシャンクにある調節ネジでボタンの浮き加減を調節します。
- ボタン付ステッチを選んで押え金No.9と同じ要領で縫い付けます。

始めと終わりの糸始末

- 糸は留め縫いされています。余分な糸を切り取ります。

糸の始末

- 両方の糸を布地の裏側に引っ張り出して結びます。
- 糸端を切り取ります。



四つ穴のボタンを縫う

- まず前方の穴を縫います。
- ボタンを注意しながら移動します。
- 同じプログラムを使って、後ろ側の穴を縫います。

しつけ縫い



ダーニング押え金 No. 9 **/**/**

しつけ縫い

- 長いステッチを必要とするときに。
- 仕付け縫い、縁縫い、キルティングに。
- 仮縫い。
- 糸は簡単に取り除けます。

準備

- 送り歯を下げます。
- 布地が滑ってずれないように、仕付する方向に邪魔にならないようにまち針を打ちます。

しつけ縫い

- 布地を押えの下に置き、最初のステッチをひと目だけ縫い、上糸と下糸を指で持ちます。
- その状態で布地をまつり縫いの長さだけ後ろに引っ張ります。
- またステッチをひと目だけ縫って、これを繰り返します。



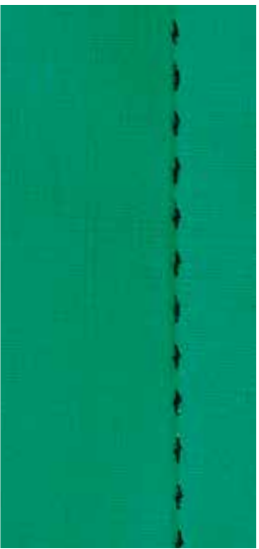
糸を固定する

始めと終わりに短く数針縫って留め縫いにします。

糸

取り除きやすいようにしつけ縫い糸や繕い縫い糸を使います。

手縫い風キルティングステッチ



標準押え No. 1

手縫い風キルティングステッチ

手縫いの風合いを持たせたい作品に最適です。

試し縫い

- ポビンの糸が布表に引っ張り上げられて出てきます。
- 下糸が手縫いのステッチのように見えます。
- 上糸はナイロン糸を使っているので見えません。= 手縫い風効果が得られます。

上糸テンション

布に応じて下糸を引っ張り上げてくるくらいに テンションを(6-9)に強くします。

ステッチバランス

必要に応じてバランス機能を使って調節します。



角の縫い方(ピボッティング)

- 針を下停止にセットし、一模様縫い機能を使って、ピボッティングします。
- ピボット(針を刺して布を回転させる)する時は、布が角で歪まないように気をつけましょう。

ナイロン糸が切れる

- 更にゆっくり縫ってみて下さい。
- 上糸テンションを少し緩めます。

クリーニングとメンテナンス



画面の掃除

柔らかい布で拭きます。

送り歯のまわり

ご使用後は必ず釜周辺と針板の下側を掃除するようにしましょう。

- 電源スイッチをオフ«0» (off)にします。
- 電源コードをコンセントから抜きます。
- 押え金と針を取り外します。
- 釜カバーを開けます。
- 針板の右奥のコーナーを強く押して針板を外します。
- ブラシで掃除します。
- 針板を戻します。
-



大釜の掃除

- 電源をオフにし «0» (off)ます。
- 電源コードをコンセントから抜いてください。
- 釜カバーを開けてボビンケースを取り出します。
- 中釜押えロックを左側に押します。
- 黒い樹脂の中釜押えを手前に倒します。
- 中釜を取り出します。
- 大釜レース(溝)の回りをブラシや布で掃除します。その際、金属の尖ったものを使わないこと。
- 中釜を戻します。必要なら、釜の中の半月状の「トンビ」が左側に位置するように弾み車を回してください。
- 中釜押えを閉じて、中釜押えロックでしっかり閉じられていることを確認します。
- 弾み車を回して正しくセットされたかどうか確認します。
- ボビンケースをセットします。



注油について

- 電源をオフに«0» (off)します。
- 電源コードをソケットから抜き取ります。
- 釜の掃除をされる度に付属品の純度の高いミシンオイル1~2滴を釜の周辺に注油しましょう。
- 注油後は布地に油シミのつく可能性がありますので、布切れで試し縫いしましょう。



掃除や注油をするときは、安全のためにコードを電源ソケットから抜いてください。



絶対にシンナー等の溶剤の入った洗剤等は使わない事!

困った時は

困った時は以下の各ポイントをご確認ください。殆どの場合、解決できます。

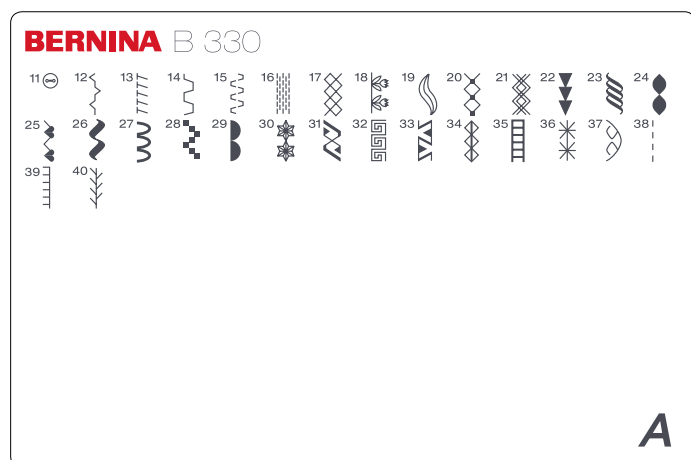
チェックポイント:

- 上糸、下糸が正しくかかっていますか。
- 針が正しく取り付けられていますか。(平らな部分を後ろ側にします。)
- 針は、針と糸の一覧表(22ページ)を参照して正しいものをご使用下さい。
- 針先が痛んでいませんか。
- ミシンをきれいに掃除し、糸くずを取り除いて下さい。
- 釜周りの掃除も忘れずに。
- ダイアルテンション付近やポビンケースの糸道のごみを取り除いて下さい。

問題	原因	対策
針目が揃わない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 針の取付け方が間違っていますか ■ 針の先が痛んだり曲がったりしていないか、針の品質は大丈夫ですか ■ 針の取付け方が間違っていますか ■ 糸の品質は大丈夫ですか ■ 針は純正品ですか、状態は大丈夫ですか ■ 糸掛けは正しくされていますか 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上糸ダイアルテンションで糸の強さを調節する。 ■ ベルニナ純正の高品質の針を使ってください。 ■ 針の平らな面が後ろ向きに取り付けられていますか。 ■ 高品質の糸(Isacord, Mettler, Gutermann)等を使って下さい。 ■ 糸の番手に合った針を使ってください。 ■ ダイアルテンション付近やポビンケースの糸みちのごみを取り除いて下さい。
針目が飛ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 適切な針を使っていますか ■ 針の先が痛んだり曲がったりしていないか、針の品質は大丈夫ですか ■ 針の取り付け方は間違っていますか ■ 針のタイプは布地に適切なものですか 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 針システムは130/705Hを使って下さい。 ■ 針は出来るだけ頻繁に交換しましょう。 ■ 針を一番上の位置まで押し込むようにしてセット出来ていますか。 ■ 布に合ったタイプの針を使っていますか。
上糸が切れている	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上糸調子が強すぎませんか ■ 糸かけは間違っていますか ■ 古くなった粗悪な糸を使っていますか ■ 針板に傷があったり、または釜の剣先が傷んでいませんか 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上糸調子を緩めて見てください。 ■ 上糸掛けをチェックして下さい。 ■ 高品質の糸(Isacord, Mettler, Gutermann)等を使って下さい。 ■ お買い上げの代理店でミシンを点検してもらってください。
下糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 下糸調子が強すぎませんか ■ 針先が痛んでいたり、曲がっていませんか ■ ベルニナ正規販売代理店にご相談下さい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 下糸調子を緩めてみてください。 ■ お買い上げの代理店でミシンを点検してもらってください。 ■ 新しい針に交換してみてください。
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 針の取り付け方が間違っていますか ■ 布を引っ張っていませんか ■ 厚地のソーイングで布地を押し込んで縫っていませんか ■ 品質の悪い糸では縫りが均一でなかったり、こぶがあったりします 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 針止めネジを締める。 ■ ソーイング中、布を引っ張らないように。 ■ 厚地にはNo.8ジーンズ押えなどの適切な押え金を使いましょう。また、高さ調節板で押え金が水平になるように補正します。 ■ 品質の良い糸をお使いください。
糸が天秤の周囲に引っかかった	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上糸が切れます。 	<p>糸が切れて、天秤まわりに糸が絡まった時は次の方法で対処してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 電源スイッチをオフ「0」(off)にします。 ■ ミシンの左カバーのネジを付属品の特殊L型レンチで取り外します。 ■ カバーを左方向へ回し、上方向にスライドさせます。 ■ 絡まった糸を取り除いてください。 ■ カバーを戻してネジを締めてください。
ステッチが揃わない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上糸テンションダイアルに糸くずが残っていませんか ■ 糸掛けは正しくされていますか ■ ポビンケースのテンションばねの下に糸くずなどが残っていませんか 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 柔らかい薄い布切れを二つ折りにして、山側を上糸テンションダイアルの溝にこすりつけるようにして布を前後に動かし、ダイアルテンションのディスクの内側を掃除します。 ■ 上糸と下糸を確認してください。 ■ ばねの下をチェックして、糸切れや糸くずを取り除いてください。
ミシン	<ul style="list-style-type: none"> ■ ミシンが動かない、またはゆっくりしか動かない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンセントの接続を確認してください。 ■ 電源スイッチをオフ「0」(off)に下さい。 ■ ミシンを異常に冷えた部屋に長時間置いていませんでしたか

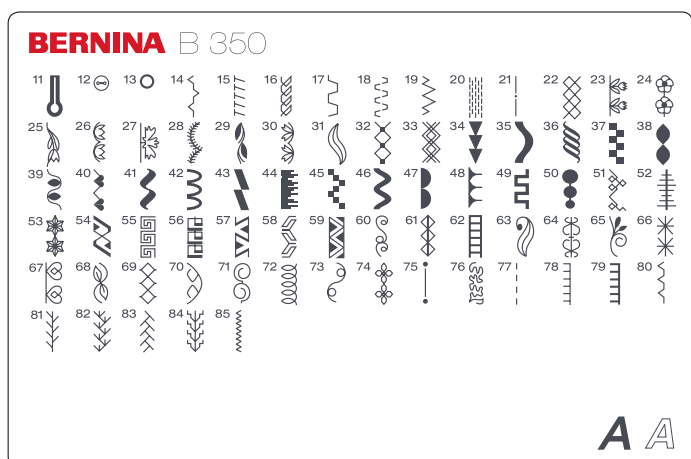
各種ステッチのまとめ

BERNINA 330



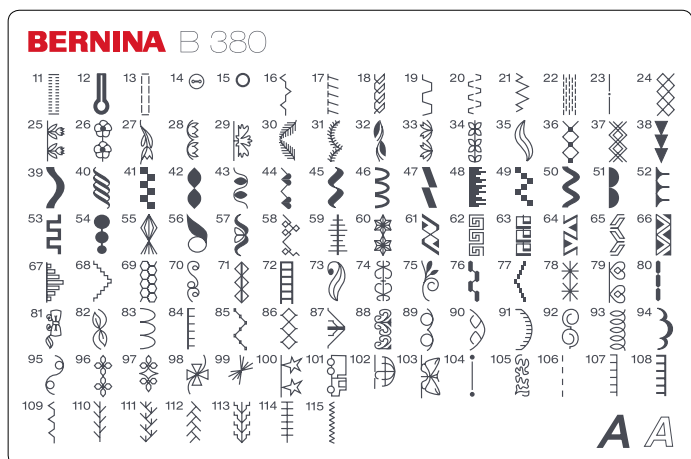
- 11 ボタン付けステッチ
- 12 ギャザーステッチ
- 13 伸縮オーバーロックステッチ
- 14 ユニバーサルステッチ
- 15 ライクラステッチ
- 16 自動縫い縫い
- 17 ネットステッチ
- 18-37 飾り縫いステッチ
- 38-40 キルティングステッチ

BERNINA 350/350 パッチワークエディション



- 11 はと目ボタンホール
- 12 ボタン付けステッチ
- 13 直線アイレット
- 14 ギャザーステッチ
- 15 伸縮オーバーロックステッチ
- 16 ジャージーステッチ
- 17 ユニバーサルステッチ
- 18 ライクラステッチ
- 19 伸縮縫い
- 20 自動縫い縫い
- 21 しつけ縫い
- 22 ネットステッチ
- 23-74 飾り縫い
- 75-85 キルティングステッチ

BERNINA 380



- 11 ストレッチボタンホール
- 12 はと目ボタンホール
- 13 直線ボタンホール
- 14 ボタン付けステッチ
- 15 直線アイレット
- 16 ギャザーステッチ
- 17 伸縮オーバーロック
- 18 ジャージーステッチ
- 19 ユニバーサルステッチ
- 20 ライクラステッチ
- 21 伸縮縫い
- 22 自動縫い縫い
- 23 しつけ縫い
- 24 ネットステッチ
- 25-103 飾り縫い
- 104-115 キルティングステッチ

索引

ア

アクセサリ	5-7
■ 付属品の説明	5
安全に関するご注意	2

イ

糸	
■ 糸とミシン針に関する重要事項	22
■ 針、糸および布	22

糸を掛ける

■ 2本針および3本針	15
■ 下糸	12
■ 上糸	14

糸ガイド

9

糸切り

■ 糸切り	9, 16
■ 下糸切り	13
■ 下糸巻き装置	9, 12

糸コマカバー

5

糸コマホルダー

■ 垂直糸こま立て	9, 11
-----------	-------

糸調子

■ ダイアルテンション	9, 18
-------------	-------

ウ

上糸

■ 上糸が切れている	45
■ 糸調子	18
■ 糸通し機	14

エ

LEDソーイングライト

10

オ

オーバーロック

■ オーバーロックステッチの縫い方	33-34
■ オーバーロック押え	6
■ 各種オーバーロックステッチ	30

送り歯

■ 送り歯を下げる	20
■ 布と送りの関係	20

押え金

■ 押え金—標準装備	6
■ 押え上げ	9, 11
■ 押え金の交換	17
■ 推奨押え金の表示	26

カ

各種のステッチ

■ キルトステッチ	46
■ ボタンホール	36, 46
■ 実用縫い	30, 46
■ 飾り縫い	46

画面

■ 画面の情報	26
---------	----

キ

機能

■ 送り、振り幅の調節	24
■ 画面	26
■ キャリングハンドル	9
■ ステッチを選ぶ	24
■ 手元返し縫ボタン	9, 25
■ 留め縫い	25
■ パターンエンド	25
■ 針上下停止ボタン	9, 25
■ 一模様縫い(パターンエンド)	9, 25
■ 模様左右反転機能	25
■ 連続返し縫い	25

機能ボタン

9, 24-25

キルティング

■ ステッチ	43, 46
--------	--------

ク

クリーニングとメンテナンス

44-45

■ クリーニング	44
■ メンテナンス	44

困った時は

45

サ

三本針

15, 23

シ

ジグザグ縫い

30, 32

下糸巻き用案内

9

下糸を巻く

■ 後部上糸案内	9
■ スイッチのオンオフ	12

実用縫い

■ しつけ縫い	43
■ 実用縫いについて	30
■ 自動縫い縫い	32
■ ステッチの一覧表	30

準備

■ ミシンの各部名称	8-23
------------	------

準備・ソーイング

■ 返し縫い/バックステップ	25
■ 機能ボタン	24-25
■ 基本設定	26
■ コーナー部分を縫う	21
■ ステッチカテゴリー	46
■ 高さ調整板を使う	21
■ パターンコンビネーションを縫う	28
■ バランス機能	19

ス

スタートストップボタン	9, 25
-------------	-------

ステッチの一覧

■ 各種ステッチのまとめ	46
--------------	----

ステッチの選び方

■ アルファベット	9, 25, 28
■ キルティングステッチ	46
■ 実用縫い	30, 46
■ ステッチパターン	24, 46
■ 番号による選択	24
■ ボタンホール	36, 46

スピード調節

■ ソーイングスピード	10, 25
-------------	--------

ソ

ソーイングスピード	10, 25
-----------	--------

ソーイングテーブル	5, 9, 10
-----------	----------

ソーイングライトLED	10
-------------	----

タ

高さ調整板	5, 21
-------	-------

チ

注油	44
----	----

直線縫い	30
------	----

ツ

繕い縫い	30, 32
------	--------

テ

手元スピードコントロール	9, 25
--------------	-------

電源オンオフスイッチ	9
------------	---

電源コード

■ ソケット	9
--------	---

ト

トリプルステッチ	30
----------	----

ニ

2本または3本針	23
----------	----

■ 2本針、3本針の糸通し	15
---------------	----

ヌ

布

■ 針と糸および布	22
■ 布送り	20

ハ

弾み車	9
-----	---

パッチワーク

■ パッチワーク押え	6
------------	---

バランス調節

■ ボタンホール	19, 37
■ 飾り縫い	19

針

■ 糸通し	14
■ 2本針および3本針	15, 23
■ 針基線の変更	24
■ 針基線ボタン	24
■ 針上下位置停止機能	25
■ 針と糸に関する重要事項	22
■ 針と糸の組み合わせ	22
■ 針の一覧表	23
■ 針の交換	16
■ 標準アクセサリに含まれるもの	5

針板

■ 取り付け/取り外し	18
-------------	----

針止めネジ	9
-------	---

ヒ

ひざ押え上げレバー(FHS)	5, 9, 11
----------------	----------

フ

ファスナー

■ ファスナー押え金	6
■ ファスナー付け	31

フットコンローラー

■ 接続方法	9
--------	---

フリーハンドシステム	5, 9, 11
------------	----------

振り幅調節	24
-------	----

ホ

ボタンホール

■ 穴を切り開く	38
■ 安定紙	38
■ 押え金	6
■ 5段階	41
■ 自動	39-40
■ 重要事項	36-37
■ 手動	41
■ 長期メモリー	42
■ 7段階	41
■ 布ガイド付き自動ボタンホール押え3A	6
■ バランス	37
■ 標準・はと目ボタンホール	39-40
■ ボタンホールの種類	36

ボタン縫付けプログラム 42

ボビン

- 下糸の巻取り 12
- ボビンをセットする 12
- ボビンの取り付けおよび取り外し 13

マ

まつり縫い

- 押え金 6
- 実用縫い 30, 35
- まつり縫い 35

ミ

ミシンのカバー 5

ミシンの詳細説明

- 各部名称 8-9
- 天秤安全カバー 9, 14
- ミシン 8-9

メ

メモリー

- アルファベット 28
- 上書き 29
- 機能ボタン 25
- クリアー 25
- コンビネーション 29
- サイズを変更して記憶 28
- 削除 29
- 実用および飾り縫い 27
- 修正 29
- ステッチ 29
- ステッチコンビネーション 27
- ステッチコンビネーションを変更する 29
- ステッチパターン 27
- 選択方法 9, 25, 28
- 長期メモリー 42
- 開く 27, 28
- 保存 27-28
- メモリーを使って縫う 28

メンテナンス 44

目次 4

文字のサイズ 28

文字や記号

- 縫い方 28

ラ

ランニングステッチ 30

レ

連続返し縫い 25

テキスト

Herbert Stolz

グラフィック

www.sculpt.ch

写真

Patrice Heilmann, CH-Winterthur

タイプセッティング、レイアウト

Susanne Ribí/Erika Vollenweider-Czibulya

版權

2009 ベルニナインターナショナル株式会社, シュテックボーン, スイス

無断転載禁ず

技術の改善、機能の向上のためにミシンの機能、部品、そして付属品は通達無く変更する場合がございます。また、ミシンの機能及び付属のアクセサリーは国によって仕様が異なる場合がございますのでご了承ください。詳しくはベルニナ正規販売代理店にお問い合わせください。

